

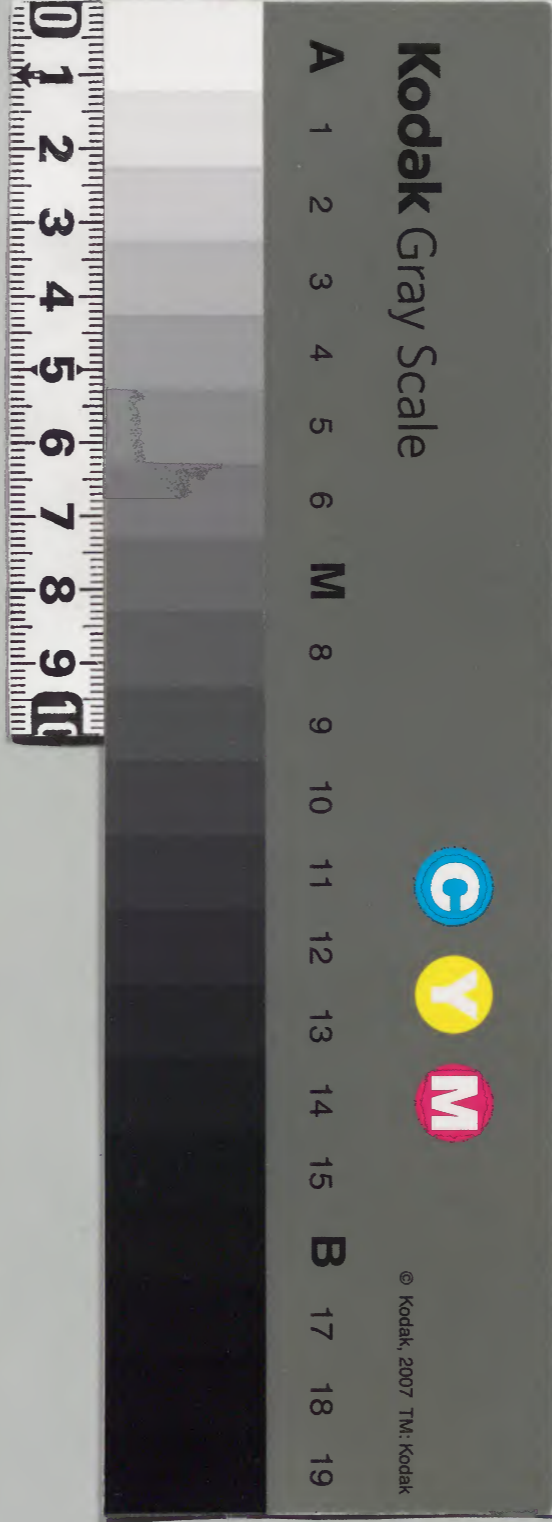
日本書紀傳 三十卷六

和 書
一〇五二二 號

百八

內閣文庫	
番號	和 10522
冊數	156 (117)
函號	特 85 1

内一三六八三號



文庫印 敬部省

文庫印

文庫印

内一六八三號

廿九百六十上丁百八小注ろが如く大已貴少彦名二
 祖柱神但馬國より打立し御在し坐て参河國小赴給
 へる古傳の有れば決めて此のハ有やう有べき地名
 あり者あり 右の如く神名帳小本着と和名抄小照一
 説を成すのりて海部郡中島郡小ハサ
 り風土記も残り葉栗郡のハ民部省圖帳此ハ少
 て傳ハるると雖も何れも殘缺本少て委ハ至る
 り心憂けれ他日猶佗古書ハ神代小直る營丹
 此國の事(旬)を見たりハ追て書加ふ可きあり
 後風土記の殘缺(一本を得たりけりハ甚異るる傳の
 伊佐郡の部)
 有て紀記の趣ハ本より合ざる物ろ却りて正し
 と感け思ゆる事ろむ多存りければ上件の播磨風土
 記小因て大已貴神少彦神の御事を合せ注せろ小倣

○日本書紀傳三十一

○二百九十七

ひて此の二神の御事を一小説べきなり其の天
日捨命の故事も雜れを此の天火明命の故事も
亦一小成なりければ餘事の如くハ見ゆめる物々
其御事をも合せ注し奉るずてハ二神の御事迹ハ於
ても猶悉小説畢なりと云べしなりける任小今共
小説を成す可き者なり又豊宇氣大神の御事をも此
小注し奉るずハ有べし其卷首ハ云く常國者往
昔天火明神等降臨之地也蓋丹後國者本與丹波國合
爲一國于時日本根子天津御代豊國成姫天皇御宇詔
割丹波國五郡置丹後國也所以號丹波者往昔豊宇氣

大神天降于當國之伊去奈子嶽坐之時天道日女命等
請求大神五穀及桑蚕等之種其便於其嶽堀真名井灌
其水以定水田陸田而悉植焉則秋實穎八握莫不然其
快也大神見之大歡喜詔阿那迹惠志而植^子彌之子田庭
然後復大神者登于高天原焉故云田庭也之所見たる
天火明神ハ天孫本紀ハ謂ゆる天照國照彦天火明櫛
玉饒速日尊亦名天火明命亦名天照國照彦天火明尊
尊亦云饒速日命亦名膳杵磯丹杵穗命
の御事あり降臨之地也天神本紀ハ正哉吾勝速日天
押穗耳尊之誕生天照國照彦天火明櫛玉饒速日尊
之饒速日尊稟天神御祖詔乘天磐船而天降坐河内

國河上哮峯則遷坐於大和國鳥見白庭山而翔行於大
虚空巡睨是郷而天降坐與と有て此趣少てハ瓊杵
尊よりハ以前ハ天降るを給へる状あり然るハ古事
記白檮原宮段ハ故尔迹藝速日命参赴白於天神御子
聞天神御子天降坐故追参降來即献天津瑞以仕奉也
と有少てハ其御天降よりハ後ハ追て降るを給ひけ
る由ありハ此風土記ハ志樂郷又二石崎の文を見
ハ大己貴命少彦名命ニ柱神等國土經營の御時ハ在
り此を以思ふハ此天火明命の御天降ハ必前後再度
御在ハ坐けらるがり其故ハ天照太神素戔嗚尊の御

折言約ハ因て天忍穗耳尊を天津日繼と定奉るを給へ
る上ハ本より天降るて天下を所知者とせ奉給ふ可
き御事謀ハ疾く御在ハ坐へるハ御事申すも更ハ
りければハ已く此天火明命を以て國形見ハ天降ハ給
へるハ大己貴少彦名ニ柱神の專國土を經營るハ御
在ハ坐ける真盛の間ありハ未其天神御子の天
降り御在ハ坐へる其時ありざりハ故ハ此ハ猶豫ハ
て其年序をこころハ經とせ給へりけの然して後ハ其
時運の宜しきを計りて天上ハ復命ハ給ひて留り御
在ハ坐ハるハ彼千種神寶を天神御子ハ進るを給

此度ハ其天ト
一土ト天香語ト
率給ハ越ルハ後
度ハ其天ト
命ト從奉ト給ヘ
有ハ其天ト
多ク有ル

ふ可き御爲小追て參降し給ひけむ事右の古事記
の如く（少）有ハ其天ト可（少）見然れば右の天神本紀（少）見るる後（少）見の御
子正勝吾勝速日天忌穗耳命答日僕者將降裝束之
間子生出名天迹岐志國迹岐志天津日高日子番能迹
ニ藝命此子應降也此御子者御高木神之女萬播豊秋
津師比賣命生子天火明命次日子番能迹ニ藝命ニ柱
也ト有るを天火明命ハ此小生坐る者ト僻心得爲たる
者ありけり其天火明命ト申すハ謂ゆる天糠戸神
の御事ハ一己ハ石戸隱の御時小御功坐一御事迹
寶鏡開始章第二一書第三一書小見えて傳廿一卷四
十二丁廿二卷七十一丁小注る如く諸天孫降臨章
小瓊杵尊の木花開耶姬命小御合坐して生坐る御子
火明命是尾張連等始祖也ト有ハ本より混れたる傳
少ト火明命ハ天孫本紀を以て正説と爲事あり示
るざれば此大己貴火彦名命の御時小御在坐へく
も非ぬ者ありとヤ但火明命ハ火闌降命の亦名あり
つゝむを此天火明命と混へて尾張氏の祖トハ書さ
れたるあり又上百三十四丁小注る播磨風土記

磨郡伊和郷の文小大汝命之子火明命ト有ハ御穂須
美命の事ありて神代小火明命ト申す三柱坐れど
も皆同名ありて異神あり一ハ天火明神ハ彼日神の
御像鏡を作坐し御功を称たるあり天孫降臨章あり
火明命ハ文小火盛時生兒ト有る是あり大汝命の御
子あり火明命ハ御心の進り面火照る義あり別あり
者ハ若て上（少）見ハ丁小引る播磨風土記揖保郡揖保里
の文小所見ハ天日槍命ハ一ハ彼日矛を造りて御
在坐ける御事小就て負坐る御名少く此天火明神
少く御在坐けむを思ふを神名式小揖保坐天照
神社名神有て事符合へるか其始ハ伊和大神ト屢御
戦の御事御在坐しるごも後ハ相和を御在
坐て互小其國を占させ給へ御事見えたる中其

完粟郡御方里の文、所以号御形者葦原志許乎命與
 天日槍命到故黑土志高各以黑葛三條著是投之、尔時
 葦原志許乎命之黑葛一條落、但馬氣多郡一條落、夜夫
 郡一條落、此村故曰三條、天日槍命之黑葛皆落於但馬
 國故、但馬伊都志而在之、と有、即神名式の伊豆志
 坐神社八座並名と所見なり此ハ其神の持來給リ
 八種神寶古事記謂ゆ、此者伊豆志之八前
 大神也、と有、是なり、次小御出石神社名神と有、是
 りむ右の天日槍命小御在、坐小就て姓氏録山城國
 孫小水直火明命之後也、と有、式小山城國水主神

△又大同類聚卷之三
 阿利山國城上
 神鏡作三頭座天照
 御魂神社之宮、水
 主直國平之家、傳
 言所之能坐者、夫
 香山命神方、と有
 七又、可證成
 可、可、若、り、け、り

△又更、り、其、三、世、孫
 天忍入命、つ、下、小、此
 命、異、妹、前、座、姫
 亦、名、葛、木、出、石、姫
 爲、事、之、有、八、天、村
 雲、命、の、女、小、葛、木
 出、石、姫、之、名、有、由
 多、り、葛、木、直、字
 三、瀧、津、也、龍、命、を
 亦、云、葛、木、直、命、と
 三、有、て、後、小、母、子、共
 小、住、此、地、名、を、負

社十座、並大月次新嘗就中同水主坐天照御魂神と有
 神水主坐山背大國魂命神二座預相嘗祭
 御出石と水主と言相同、と小其即天照御魂神小
 渡、と給へるを以て其心をむ定む可なり、然
 して城崎郡海神社名神坐小姓氏録左京神別小但馬
 海直火明命之後也、と見え天孫本紀小六世孫建田背
 命を海部直丹波國造但馬國造等祖と有、右の丹後
 國も係て心得べきなり、又丹波國天田郡天照玉命
 神社氷上郡高座神社ハ饒速日命高倉下命の二神小
 小栗田郡氷上郡共小神野神社坐、此ハ山城風土
 記小謂ゆ、神野伊可古夜日女生子名玉依日子次白

○日本書紀傳三十
 ○三百一

依日賣と有る是るを傳廿六百九十小注るが如く
秦氏本系帳ハ秦氏女子と有る姓氏録山城國神小
秦忌寸神饒速日命之後也を以て其饒速日命の御女
る事ハ知るるあり本より大山咋命の鳴鏑を用
給ひしも建角身命の伊可古夜日女命を娶給ひし
甚古事と聞ゆれば饒速日命ハ係り多故事を見て
能通ゆ者ありし如此く本末を訂し辨ふ時ハ
天日槍命ハ一神ありずしてハ古書
の事實ハ打合ざれば紀記の趣を離れて説を成さむ
も強説トハ思へし其神前郡多馳里の

所ハ所以云ハ千軍者天日槍命軍在ハ千故曰ハ十軍
野と有る世ハ千戈神と仰ぎ聞ゆ大己貴神ハ相
對ハせ給ふ程の御稜威坐す神して渡りせ給へれば
此饒速日命ありずハ得有る見えたりけり
然れば此風土記ハ當國者往昔天火明神等降臨之地
也と有る右の如く播磨但馬丹波を經て此伽倭郡ハ
留住せ給へるを御事を申せり者ありけり但重仁
年御紀ハ新羅王子天日槍來歸焉と見えたりハ神代
の事を時世を違へて傳たりけりハ論無しと雖も其
細書ハ故天日槍娶祖馬出島人太耳女麻多鳥生但馬
諸助也諸助生但馬日槍梓日槍梓生清彦清
彦生田道間守と有る其子孫の傳詳ハ在り又姓氏録
左京諸蕃下新羅ハ橘守三宅連同祖天日槍命之後也

と見え右京諸蕃下小三宅連新羅國王子天日旃命之
後也と有て蕃種ふ多違有とトケリけバ予ガ天
大明神と一ありと云説ハ立ざるか似たり然る小其
右京皇別下小新羅貴彦波欽武鷓鴣草菅不合尊男稻
飯命之後也是於新羅國即爲國主稻飯命者新羅國王
之祖也日本紀不見と云事有り右小天日旃命を新羅
王子と云小非ずや然る時ハ其子孫の清彦又田道間
守ハ垂仁天皇御世の人あり清彦ハ其曾孫小當格ハ
ハ其より逆上せて天日旃命を假小孝昭天皇孝靈天
皇の御世頃の人と見る時ハ其稻飯命の孫ハ曾孫小
當格可一其出自同トと天日旃命の流を一ハ皇別小
收れ一ハ蕃種小下す事大ふ違と云べ一假令稻飯
命の子ふどふむくハ大己貴神の國造の御時と
ハ世を去る事甚一違ある者あり此を以て彼も此
も共小其誤傳ふ多を知べ一此事古事記も載たれ
ども其天火明命の但馬小御在坐一程小其國神の
女を娶り生給へる一種の別小在と見て何云ふ事ハ
ハ有む且其始高麗國意呂山小天降坐て渡給へれハ
其事小因て蕃種と云ハ右の丹波國天田郡天照玉
命神社を蕃種ノ丹波氏ハ氏相神と一て祭るも同ト

を意味を以て右小蓋丹後國者本與丹波國合爲一國云
てふンリ
ハ元明天皇御紀小和銅六年夏四月乙未割丹波國
五郡始置丹後國と有る是あり所以號丹波者ハ其名
義を説ふり往昔豐宇氣大神天降于當國之伊去奈子
嶽坐之時ハ四神出生章第十一書小謂ゆる保食神
の御事小御在坐ハ實ハ素戔鳴尊の御在坐小天
照太神の大御許小天上小迎々を御在坐り此小因
て下小御田口祠者ハ祠者の所小天照太神分靈子豐宇氣大
神と見え田造郷の下小往昔天孫降臨之時隨豐宇氣
大神之教云々と有を以て天上小其現御身の御在

坐す御事を見奉り知べきあり伊去奈子嶽ハ丹波郡
 比治山是より傳十四三十九丁引る細川忠興主の順國
 志ハ比治の眞名井原邊ハ磯砂山笛原寺と云寺有り
 此後山を比治山又足占山と云ふ豊宇賀能咩命天降
 りの山あり故ハ如此云ふ有り是より此國ハ其
 大神の本生の地ありを以て此ハ暫時天降り御在り
 坐ハ五穀及粟蚕等の種を世ハ遍く幸給ハ御爲あり
 と見えたり天道日女命ハ天孫本紀ハ天照國照彦天
 火明櫛玉饒速日尊天道日女命爲妃天上誕生天香語
 山命と有り請求大神五穀及粟蚕等之種矣ハ其大神

の御身より其始成出たる物あり故ハ今將乞奉給
 へりあり便於其嶽堀眞名井灌其水以定水田陸田而
 悉植焉ハ大神より受賜りて給ふ諸の種を此地ハ
 始て下し給へるを云ふ則其秋垂穎ハ握莫然其快
 也ハ御紀の文とも合すが其快也ハ甚快也ハ可
 大神見之大歡喜現御身の正目ハ見行悦給御在り坐る
 り詔阿那迹惠志而ハ八洲起元章第一書ハ妍哉此
 云阿那而惠夜と有る是より其水田陸田ハ五穀及粟
 蚕の成まつ状を見愛給へる御言より植弥之子田庭
 ハ之子袁田庭カニハニカエワシクマヒキ植弥給比伎と讀へる所あり然後復

大神者登于高天原焉と有る先小天上小登りて給ひ
けり神の天降坐て再昇給へる所あり故に復字有
り故云田庭と有る田ハ物を植附る地處を云ひ庭
ハ平坦なりて廣き處を云事也云傳十五百三十九
丁廿六二百七注云如し即和名抄小丹波郡丹
波郷有る其地なり其の丹波と云ふ全國の俗と
成り後小丹波丹後二國小別れたり其所以是る
り儲此大神の天降り御在り坐りて全天照太神の
御心ありて國土小石の種共を授け依り給へる
少く大己貴少彦名二柱神等國土を造巡給ひし時
命與須久奈比古命巡行天下時稱種復此處故云種と

見え伊賀風土記小天照大神自天上下天之阿波云
と有る伊賀何れも國作の當昔と聞ゆ若て伊勢國奄
藝郡伊奈富神社の日記小本社大宮祭神那江大國道
神保食神本朝五穀衣服の元神と崇奉り即御食津神
を降給ふ東別宮三大神鳴雷電光神大山祇命靈神西
別宮祭神豊宇賀賣命稚産靈神石と稻生三社と崇奉
り又豊御崎社祭神猿田彦命稻生社補佐神あり東國
岡社祭神保食神稻生社小天降給ふ時御鎮坐の地ふ
り云と有る此の御天降の御事と云ハ右と同
年の御事あり可し儲倭姫命世記小崇神天皇三十九
給此歲豊宇氣神天降坐奉御饗と有る右とハ別の度
の御事あり思混ふ可し其ハ下三百丁十
注云可し其一小云く伽依郡者舊田笠郡之馬訓日宇氣
乃已保利所以共持宇氣往昔豊宇氣大神留坐于田造
郷美原山而出食受其恩頼故日宇氣也笠一訓伽依出食

△而受の間の「受」
字の「受」は「事」次小
引の文を以て「受」
とす

二世謬曰伽佝乃以下虫有舊田笠郡之寫と有ハ寫
ハ舊田笠郡之字ト有フ
ハ「字」字を誤ハル可ハ訓曰字氣乃已保利ハ下
見元田造郷の所ハ笠水を訓字今美都
ヲハ笠一訓伽佝有を照見ハハ笠の本訓字氣ハリ
ハ一本頭書小尾張有笠狭間訓曰字氣波邪万
ハ訓笠謂字氣者是其證歟後世用桶字者誤也ハ鈔書也
ハ猶考ハ可ハ事ハリ次ハ往昔雙中氣大神留座于田
ハ造郷矣原山ハ下ハ田造郷の父ハ於是天道姫命（按筆以
ハ祭大神心故名云葦占山云詔汝可發ハ其矢留之處
ハ必清地矣命諾而發其矢則到于當國之矢原村即時生
ハ根枝葉青ハ故ハ食矢原（天原訓則于其地建神籬以迄

祭大神而始定墾田云と有る是ハ丹波郡伊去奈示
 子嶽ハ此地ハ遷奉ハを云ふハ受其恩頼故曰字氣
 也ハ恩頼の事ハ傳廿九二百七ハ注セリ受右の田造
 郷の所ハ大神の御鎮座の御事を云て於是春秋耕田
 施稻種遍于四方即人民豊故名其地云田造也ハ有る
 是其受即其恩頼ハ故曰字氣ハ字氣ハ其二百八注
ハ如く古書の例多くハ蒙恩頼と云ハ中古例ハ御
ハ陰云事ハ就て右の笠字を字氣と讀む事を考
ハフハ其蒙ハ冠ハ同言ハ上ハ戴ハ義ハ笠
ハ幘ハ如之物を頭上ハ戴ハ亦加夫流ハ古ハ



の通言なり又貴所より物を得て也給ふ事小受賜ハ
と云ひ又物の上小存る事を浮ウツと云ふを思ふ
小笠と宇氣と云ふと小非ず寶鏡開始章小覆槽此
云于該と注されたるハ本より空筭ウツケの義なる物
其覆字ハ物を覆オホふ義なり神社啓蒙小大和國吉野郡
式外勝手神社ハ程神の義ありを所祭受野曼命と書せるハ神の御装小
就て称奉る者と思ふハ鬘マシ頭上小著る物なるを
宇氣と云ふハ笠を宇氣と云ふ行狒コシなり偕此小受其
恩頼マシと云ハ蒙其恩頼の義なりければ古ハ宇氣乃已
保利と云ハ其御蔭の遍く諸民の上小覆ひ且れ

義の称ナリ者なりけり次小笠一訓伽佐と云ハ其物
の本称を云ふ少て笠を宇氣ウツケと云ハ右の如く上小冠
なる其用を云者なりて宇氣ハ笠の称呼ハ非ハ事
譬へバ加賀布理と云時ハ物名と成り加賀布流と云
へハ其用言と成小相異ありと云者ありむ世謬曰伽
佐乃と有ハ伽佐乃已保利と云とある可レ此ハ古小
保利ハ笠郡の字を用ひたるを笠ハ伽佐と訓ハ事常
なる故小終誰云と無く伽佐郡と呼ぶ事と成て宇氣
と云ハ本義を失ひし者と所見たり偕其田造郷ハ
英原社を本伊勢と云て丹波國福智山より丹後國
宮津へ越る山中ハ在り世小本伊勢と云ハ甚神カミ
を神地なり其より山中を宇氣ウツケと云ハ思オモゆ予
去年出雲小赴く時小通りトりて此風土記を未見
ざる程の事ありハ何の心も著さしけり

了今思へば遺憾しと事ありけし但天武天皇五年神
紀小爲新嘗下國郡也云々次丹波國訶沙郡と見え
北バ古ク伽カ佐サ郡ノとハ其ニ小志樂郷ノ文有り所以號
云レ謬レ也云りけり
志樂者往昔少彥名命大穴持命當巡覽所治天下時而
悉ニ巡行於此國畢史到坐于高志國之時召天火明神詔
汝命者可領知此國火明神大歡喜乃曰永母也青雲乃
志良久國其故云志樂也と所見なり當巡覽所治天下
時而ハ傳サ九四百七十六下小注スガ如ク大已貴命少彥名
命二柱神等專國土を經營りて御在リ坐ケテ御時を
申セテ事常の如ク悉ニ巡行於此國畢ハ今ノ丹波丹後
の國を未レ一國あり一古クを皆ク治スるハ此時ハ其二柱神ノ傳ス代

主神も供奉り給ひ天火明神も從ひて高倉下命も共
小御在リ坐ケテと見えて傳サ九五百六十一小引テ丹
波國天田郡岩神祠説小昔天照大神の御時西村夷三
郎と申す御神諸國遊行ト給ハ時ハ略シ神馬を此ハ留メの
とせ給ひ一舊跡あり近傍小高六尺余の立岩有り此
ハ其供奉神の多く坐シ中ハ此地より西一里許小日
置と云地小高倉大明神導奉りて神馬の口を取テ給
ひ其時彼神此立岩を指先ヲて差貫キ手綱を通シ給
ふ今小馬鋌岩と云傳ふ若ク此岩神の下小大ハ淵
有り傍小幅六尺許あり然ルルハ釜の口の如クあり

岩元有り丹後國與謝海に通ふと云ふ又其邊小長二
 十間四方高三尺許の程山の如く少く數百の大岩有
 り上ハ往來の道少く凡三尺許の平坦なる岩有り此
 小彼三郎殿の乘給へり神馬の跡四足共小今現小在
 り又供^馬奉^足の馬跡或ハ鉾の柄尻を立させ給へり跡と
 云ふ數ハ有り^略下と云ふハ其里俗の傳シを事あり
 古風上記の^説逸^思りて現小其神跡詳あり者あり小心を
 得て見らふ右小天照大神の御時と云ハ天火明神の
 御在り坐けり頃間を云ふ可し式小同郡天照玉命
 神社有る是あり右の夷三郎殿と云ハ少彦名神又ハ

此小事代主神云ハ
 此志樂郷に降して若
 狭國大飯郡有と上
 群小引、同郡大飯神
 社の古傳小孫高座神
 往古此邊の田を開
 發給へり故大飯神
 立明神と申す神体
 ハ鉾の柄尻を渡らせ
 給へり云ふ此神ハ
 即事代主神少く渡
 らせ給へり御事を
 思へり云ふ其

事代主神をも申せれば其三神郎殿と云ハ大己貴少
 彦名三神と事代主神と三神の御事ありむを俗小然
 傳たる者あり可なりの高座大明神ハ多紀郡高座神
 社坐せり此ハ式外あり^{天田郡}日置村小坐あり是即高倉
 下命山々天火明神の御子天香語山命小坐せば此
 亦饒速日命ハ已く天降り御在り坐けり一證
 あり者あり可なり次小更到坐于高志國とハ已小此國
 を造畢させ給ひて此陸道小遷御在り坐り御時を云
 ふ當國與謝郡大虫神社^{名神}小虫神社^{名神}と有て越
 前國丹生郡大虫神社^{名神}小虫神社^{名神}の御在り坐り因

此小大已貴命
少彦名命二神の越
國小御在坐一御
事右の如く多
郡伊和布四神社
長多神社高田神
社有越三門國教
賀郡市振神社越
後國鎮城郡國田
神社見之同郡市
振又高田の地名
有ハ由有げの事
多あり

し給ひて高志國小移り給へる者見えたり其
天田郡梅谷村岩神の地ハ福智山より西方二里許小
東ハ西ハ但馬國朝來郡小隣り北ハ丹後國與謝郡北
東ハ伽佐郡小即由良川の水上一ハ在り其心して
考及不す可右其三小御田口祠の御事見えたり此も
右の志樂郷の内あり御田口祠者往昔天照太神分靈
子豐字氣大神猶照臨于五字造日本得魂命等便以地
口之御田奉更建校倉藏其穀實也故名曰阿勢久良奧
其倉以称御田口以下六と有る天照太神分靈子豐字
氣大神と云ハ深き所以有る御事あり四神出生章
第二一書小即軒遇突智娶埴山姫生稚産靈と有て古
事記小和久産巢日神此神之子謂豐字氣毘賣神と見

えて即火産靈神埴山姫神の御子稚産靈神其御子豐
字氣大神と云渡り給へるを如此し云事ハ穀物
ハ更しも云ず萬の草木の生立ち榮ゆる事ハ一も天
日の大御光小因れ物あり有ければ其事の上ハ於
ても日神の分靈の御子とハ申へるあり然るハ皇太
神より素戔嗚尊を大御使と爲て天降し給ひ其保食
神の消息を令見給ひけ其時々の事ハ依て五穀
粟蚕の種子あり出來れりけを其大神諸共ハ天上
小召上とて御在坐て天津朝廷小御在坐一の給
ふ由傳十四百六十九五十七小注ハ如くハ小大倭本

記小皇御孫尊の御天降り始小齋鏡三面授進らせ給へる小二面ハ皇太神の御靈と前御靈と一面ハ此御食津神の御靈小渡らせ給へるを以て天上ハ其現御身御在り坐す御事知れ下るる田造郷の又ハ天道姫命天香山命語の此大神小仕奉給ふ御事有る其天香語山命の作成し奉れり御鏡小坐を以るる可し若て右小猶照臨五字干虫食造と有る故字を今考ふる猶照臨干此國之時國造と有る可し天孫本紀六世孫建田背命の下小丹波國造但馬國造等祖と云事見えハ世孫倭得玉彦命と有るを合せ讀て知るる可し次

小以地口之御田奉ハ倭姫命世記所ハ御遷幸の所小多く進地口御田と所見なり更建校倉ハ和名抄小倉庫の下小庫萬呂一云與奈一云伊奈倉也云甲倉古良校倉阿世久良俗用之云と有り校倉ハ畔藏りて本ハ田畔小構置く倉庫の謂る可し次ハ藏其穀實也故名曰阿勢久良と殊更ハ注せしを見れば其校倉を造る初此小起れり云々其倉以称御田口を其地口御田を奉れり傍小校倉を建て奉り此を御田口祠云云由りて後世伊勢神宮ハ在り諸國の神戸御厨等小社を建て其神宮の拜處と爲る事の始亦此小

△下三百五十二伊吹
社神事小記
辨有り共合す可

△川守郷の文小日子
坐土の土蜘蛛を退
治させ給ふ所小日
木得土命も共小
御カと八百世給ふ
事見えたる決

起り者と所見たり諸國作の御事小預る事
も其天火明神の此國此小注す如何なる物
を以て止事を得ざる事あり且豊宇氣大神を皇
太神の分靈子と云事の奇珍しけれ因小辨を加
ふるなり右の地口ハ世記知具知と訓り然る時ハ
地を字音小訓小似たりと雖も此音訓相通ふ字ハ
事已小傳五卷渥土煮尊沙土煮尊の下小うら
くるれハ知具知と訓るむ古言ハ有べき諸地口
を神小奉り為小更小設るを地口之御田と申す
可一儲右の日本得魂命ハ瑞籬御世頃の人ありけ
北バ世記小同天皇三十九年壬戌迄幸但波乃古佐宮
積四年奉齋云々此歳豊宇氣神天降坐奉御饗と有る
此度の御事其四ハ二石崎の父有り此志樂郷の内
あり二石崎者古老傳曰當于往昔平治天下之時大已
貴命與八字地而二神相議坐把白黒之鐵砂使白天火

明神而詔之曰此石是吾今靈也汝命宜奉祭于六字地
之共雖波浪爲鴻荒ニ字邦同焉天火明命隨詔崇其靈
石則石石自分黒白有神驗十二字崎也後世王俗言瀬
崎者誤矣次四行と見えたる與字の下小欽たるハ文
ハ少彦名命到坐于此の八字をめり下る凡海郷の
文小到坐于此地の語例も有れば大已貴命與少彦名
命到坐于此地而と有る可一次小相議坐云ハ
天火明神ハ此志樂郷を領知セ奉給ひて高志國が移
給ふ小就て二柱神の御靈を此小留置て守給へるも
御事を此小相議して御在下坐けるありけり把白黒

之鐵砂ハ下小則左右自分黑白と有る是少く二石崎
と号る所以是より使白天火明命と有る其神の御許
小御使一令白給ふを云ふ汝命ハ天神御子ハ渡り
せ給へる故小崇の申させ給へるあり宜奉祭于六字
地ハ宜奉崇于我二神之靈天地之共云々と必有る
所あり石小此石是切吾今靈也と有る其黑白の鐵砂
小御靈を託て天地の共此地小御在一坐て守奉る也
給ふ可き由を聞えさせ給へる小合せ考ふ可し若て
天地之共ハ世々共あり雖波浪為鴻荒と有る波浪
の鴻小荒る事有と云ふもの義あり久代の事を鴻荒

之せふと云ふハ異なり次あり邦同の字ハ如何とも
讀べし一上文小照一應す一鎮護邦國ありと有る
あり可一下あり有神驗の語小合せても知るあり
隨詔崇其靈石と有る隨詔ハ上小此石是今吾靈也云々
と有るを承た文あり則左右自分黑白ハ自然小二神
の靈石相分れて混黑白小雜一と謂ゆ一石崎を成せ
るを云小次あり十二字の欽文ハ例小依小有神驗焉
故天火明命號其地云二石崎也と有る一文あり後世
土俗言瀬崎者誤矣と有る此誤の基ハ石連語の時志一と云事
常あり故小又其あり訛りて瀬崎とハ云けりあり

リ即卅伍社の中小石崎坐伏三輪社と有ハ右の二神
を祠奉るを給へるふり大三輪神三社鎮座次第小
奥津般名座大物主命中津磐座大己貴命邊津磐座女彦
名命と有る例をも思ふ可くは諸二神の此地小鐵
砦を取て天火明神小奉るを給へる小就て索隱ソウエン小
此大神ハ一も謂ゆる天授戸神小御在坐す事傳廿
五十一丁小己小注るが如し斯る小其御子天香
山神と共小日像之鏡を作り日矛をも作るを給へる
が故小鏡作神と申奉り天日槍命とも稱へ聞ゆる狀
るりければ其神の鏡及矛を造り物爲させ給ふ可る

△備此小春部村と
云名出たハ河内國高
安郡天照大神高座
神社二座天日新宮
を三代實録云春部
神に有リ此天照大神
ハ天照玉神と誤れ
つて即此天火明神の
御事分り申傳立神
小春部村と此天火明神ハ
ハ所以有地名なり
△宮記小大己貴命
又

料小其御靈寶の御事を兼り授聞させ給ひけむを其
次より四行の臺魚小禍せしめて傳りし事なり故
小考ふ可き便宜無き事其可惜し事ありけれ今
けりくハ傳九卷七十一丁又上二百二丁小注るが如
く美作國吉東郡中山神社名神大ハ金山彦金山姫ニ
神して渡りて給ふ御事申すも更あり然る小古本書
ハ小社記云鏡作神天照太神第三御子と書し頭注小
一宮也大己貴命也云ハ決小難信事と思へり
けり此ハ同歌此文を讀む小至りて大得る所あり有
りて古小眞鐵を多く堀出るを以て世小名高り
あり事誰も知れらるが如し然る小鏡作神云ハ此天
火明神小御在坐せハ天照太神第三御子と云ハ皇
太神の御孫小當りて給へるを第三御子と傳誤れ
の事なり有ければ其眞鐵を以て鏡を作る由小依て此
社小祀ハれ給ふ小御在坐けり又大己貴神
此風土記小右の如く見えて鐵砦を天火明神小授

給へり御事有れば此小ても然る故事の御在り坐て
共小鎮リ御在り坐す者之所見たり考證ふも社司相
傳云中山神鏡作神云と見え和名抄小當郡高倉郷
有ハ其御子天香山命亦由有リ又勝田郡も若副西
郡も其香美郷と云有も右の鏡作神の所以多小思
合す可一又此同神あり美濃國不破郡仲山仲山金
山彦神社名神大御在り坐小和名抄小各務郡各務郷
有し鏡を以て地名と爲る多小神名式小村國眞墨
田神社御在り坐る眞墨ハ眞澄鏡の謂るを上二百
九十一丁小注る如く尾張國中島郡眞清田神社名
神大ハ正一丁天火明命の御社多小大同類聚方又
一宮記等小大已貴命多由を云ハ天火明神と大
己貴神とハ甚親一く並坐す所以正小此不在事
るを合せ考ふ可き者多ク一儲鐵砂ハ常陸風土記
鹿島郡の文あり見えたり其訓詳る多小本草和
名小鐵和名阿良加祢と有ハ練鍛ハさるを云り又
鐵落一名鐵澳和名久呂加祢乃波太と有ハ依り時ハ
久呂加祢乃須奈古と云べし小似たり此小白黒
之鐵砂と云ひ左右自分黒白と有ハ叶はず然ハ古
事記小天金山之鐵と書されハ草古今集大歌所歌小

眞鐵韜くと詠和名抄小砂水申細礫也和名以左古
又須奈古と有ハ依り麻賀祢能以左古又ハ須奈古と
も訓つ可其五小枯木浦の文有り此も右の枯木浦本
く思ハ彼枯木浦者往昔ハ字貴大神斯二柱神當于國造坐之
時令欲令海路順次所在之渚島集合之便登于笠松山
三字限息號呼以曰彼彼來來則四嶼自來列故曰彼
來也と有る往昔の下多缺文ハ少彦名大神與大已
の八字あり此ハ往昔少彦名大神與大已貴大神斯二
柱神と讀く可き文あり事疑無き者多ク海路順次所
在之渚島ハ海上小次の順小在ゆ渚又島を云少
渚與島の義あり和名抄涯岸類小洲水水中可居者曰

洲李巡曰四方皆有水也和名須こ有る是なり島ハ其山
谷類鳥嶼小説云島海中山可依止也和名唐韻云嶼與序
同海中洲也と見えたり欲令ミ之ヲ集合シ之ハ次第ノ離
ニ小散在リけり渚と島とを一ニ集合セ給ハむと少
出雲風土記小謂ゆり國引の故事小甚能似させ給へ
り御所業小あり御在り坐けり笠松山公例の如く宇
氣能松山と訓むあり可一其下の三字虫食ハ二柱神
と有つるむ事上文小依りて知る限息號呼ハ御聲の
限を盡スて御在り坐り號呼ヲせ給へるなり白彼彼來
來ハ彼來カレヨカレ彼來と詔給へるなり彼國引の文ハ八雲立

出雲國者狹布之雅國在哉初國小所作故將作縫詔而
枓衾志羅紀乃三埜英國之餘有耶見者國之餘有詔
而童女胸鈕所取而大魚之支太衝別而波多須ニ支穗
振別而三身之綱打挂而霜黑葛闇ニ耶ニ尔河船之毛
ニ曾ニ呂ニ尔國ニ國來引來縫國者下略と見えたり國
來國來ニ此ト同ト趣あり予先ハ綱打挂テ其國を
引給ふ囉子然る御言を詔給ひ一者と思ひつる小此
風土記を讀て合せ考る小此より彼來ニも右の國
來ニも實小呼招クせ給ハて爲テ然る御言を係させ
御在り坐けり其御言小對へ奉りて終小招キ寄ル

此奉^レ此者ありけり則四嶼自來列と有る四嶼ハ右
謂フ小海路順次所在之渚島の四あり有けり自然小來
 寄り合列りて一島と成れり由あり此小自と云ハ
 御網ふとを打挂させ給へるし非ずして唯小御聲
 の限を盡して號呼させ御在り坐ける任小自然小一
 小相園より成れり由あり此小自字ハ眼と見へる
 所あり者あり其彼來と云ハ笠松山の海小臨める麓
 の海濱と通えたり偕此四嶼自然小列りて一小合る
 島ハ推狹考と云物小丹後國訶佐郡の方へ開きて海
 中小周廻三里小及ぶ島有り小島と云ふ云々社有て

老人島大明神と云ふ云々同國河守里大神宮の社人
 此社を預れり河守ハ昔故有ての社あり式の籠神社
 是ありと云々此島あり地理も克合る心ちす其河守
 社と云ハ神名式小謂ゆ傳十四百三十一與謝郡籠神社名神の御事大
 小渡りせ給へり此社人の祭祀を預と云ハ右の笠
 松山より號呼ハせ給へる海神小對ひて然爲させ
 御在り坐ける所小依れ其ハ事異ふれども崇神
 天皇十年御紀武埴安彦が
 謀反の時小武埴安彦之妻吾田媛密來之取後香山而
 畏領中頭祈日見倭國之物實則反之と有ハ其土を取
 て國を奪ふ謀ふが其出所を知りけり御事御在り坐る小
 國を號呼びて引寄せ給へり今思出り任小試ふ少云々
 本就ハ呪術ハ非る今思出り任小試ふ少云々
 猶後人委曲小考てより一儲此枯木ハ彼來の義あり

を一本頭書小或云枯息之約其有ハ右小限息と有
小依て御息を枯し給へ事小取成したる少く文意
を熟く思ひ給ふなり今も俗小物を呼呼小其名を指すして彼來と云なり其六ハ高橋郷
の父あり高橋郷本字所以號高橋者天香語山命於倉
部山尾上創營神庫以收藏種神寶設長梯二字到其
庫之料故云高梯今猶峯頭有神祠稱天藏祭四字亦其
山口十字國有稱天道日女命者老來居于此地績麻養
蚕教人民製衣之道故云山口坐御衣知祖母祠也と見
えたり此ハ大己貴少彦名二柱事小係ハ事あり
此ハ天火明神の所以小就て此小注す可一其天香
語山命ハ右三百小引ハ天孫本紀ハ天照國照彦天火

明擗玉饒速日尊天道日女命為妃誕生天香語山命と
所見たり是あり此神の御事己小傳二十五十小注一
奉此倉部山天藏の邊在謂山のあり次小庫梯山
倉部山又倉梯川と云有も其一名あり尾上ハ下小峯頭と有る是
別稱也
あり古事記八十神段小高山尾上又ハ坂之御尾なり
尾字を作らハ麓ハ万葉九二十小踏本と書ラ其本小
對へて末の意小云ふ尾あり其並び小峯上之櫻花者
八廿九小霍公鳥鳴峯乃上能十九十一小足引乃峯上
之櫻又三十二上之峯於乃繁ふ峯をも峯をも用
ひたりの同ト言ふ其朝倉宮殿小山尾と有ハ此と

此神寶御正体
可事次
呂里の下小を見

ハ其本一ノ爲て意味少異りシ白檮原宮段多ク白檮
尾上又古今集ノ山櫻我見ノ來ルハ春霞峯少ク尾小
も立隠一ツこと有ハ記傳四十二ハ小云れたるが如
く山の喬の引延たるを尾と云少ク上るるハ山の立
る状ノ本末を立てて云ひ此ハ山の全形小就て峯を顛
と爲る其尾多ク義多ク猶傳廿三 百二十 八丘八峽谷
の所小云くを見可一創營神庫ハ垂仁天皇八十七
年御紀小神庫此云保玖羅と有是なり次小收藏種
ニ神寶ハ天上より持降給へる神寶を崇祀り給ふ料
あり改小称天藏と有を合せ思ふ可一設長梯の下小

廣瀬の四の峯分

而爲の二字を脱せり少ク設長梯而爲到其庫之料故
故云高梯之有一なり可一冠辞考小云く古事記高津
宮段歌小波斯多氏能久良波斯夜麻哀佐賀志美登云
ニ万葉七二十小橋立倉七丁倚山云一此ハ高き倉小ハ梯
を立て升る故小然云係たりの垂仁天皇御紀小五十瓊
敷命謂妹大中姫曰我老也不能掌神寶自今以後必汝
主焉大中姫命辞曰吾手弱女人也何能登天神庫耶神庫
此云保玖羅 五十瓊敷命曰神庫雖高我能爲神庫造梯豈煩
登庫乎故諺曰神之神庫隨樹梯之此其縁也と有是
なり保玖羅ハ秀庫なり高く秀るを允て保と云り和

名抄のも搦和名加木階所以登高也と云り古の庫ハ
甚高く構へて下ハ柱の限頭ハ小見ゆ故ハ搦立て登
る事を成せり以上と有みて通えたり已小傳廿一十五
丁小注ヲガ如く神武天皇戊午年御紀ハ出た高倉
下と有も此神の御事多由ハ天孫本紀ハ天香語山
命天降名手粟彦命と有みて知らるるを猶其頭書小
神名式小謂ゆ山城國綴喜郡棚倉孫神社大月次
舉た多ハ實小然と言ふて其ハ神庫の板舉を以て負
給へる御名多り然レバ天上より持降り御在り坐け
る神寶を許多小收藏て齋と御在り坐す謂と所見た

△何鹿郡高座神社
△尾張國愛智郡
高座孫神子神社
名神大
△諸國小同名古
倉部ハ
△近江秋精兵怒
衝玉倉部邑有
美濃國不破郡
小當り
△今今ハ伊賀國河
報郡小属上柘植の田小倉部村有

り今猶峯頭有神祠ハ右小於倉部山尾上創營神庫と
有る地是より称天藏ハ天上の神寶を收藏る由して
彼天神庫と云も同ト意味多り祭と命との間の政字
ハ天香語山の字して祭天香語山命と有りありけり
即其神社の中ハ天藏社見えたり即ハ注ハ河内國
高安郡天照大神高
座神社二座並大月次新嘗元号春日戸神ハ大ハ玉の
誤して天照玉神高座神社多丹波國天田郡天照玉
命神社水上郡高座神社坐多ハ何水も天火明命天
香語山命の並御在り坐すありけり其外陸奥國行方
郡高座神社ハ更あり諸國ハ高倉と云ハ地名の有ハ
皆此神小由有り諸右の倉部山公天武天皇元年御
紀小守倉歷道と有ハ和名抄郷名小近江國甲賀郡
藏部久良布と有ハ是より又古歌小多ク詠ハ山城
國郡あり右等ハ此神小由有ク無ク未正見
されども後勘の爲小抄置く者あり何れカて

床しと事共ふり此小倉部山の別称を庫梯山と云ひ
倉梯川の称有小大和國十市郡も倉梯山倉梯川有
も必所以有ぬ 儲右の文小其山口と有ハ其倉部
可事共ふり 山の山口あり少く峯頭小天香語山命の御在坐け
る小並びて此小ハ其御祖天道日女命の御在坐け
る故事あり其欵文十字ハ下文小依て坐御衣知祖母
祠坐の八字ハ正しく見えたり然る小國字の上ハ
何れハ其神の此迄住せ御在坐國名の有つる
くのども今更小考得るるを卷首國号の所小往
昔豐字氣大神天降于當國之伊去奈子嶽坐之時天道
日女命等ありと有を見る小于當の二字ありありけ

の故其文を續け見らふ亦其山口坐御衣知祖母祠者
于當國有称天道日女命者と云文あり于當國と云ハ
右小次て天道日女命等請求大神五穀及桑蚕等之種
其便於其嶽堀真名井灌其水以定水田陸田而悉植焉
略故云田庭と有て即上三百小注四が如く當國丹波
郡丹波郷有る是れハ于當國とハ正小謂つ可き所
あり者あり老字ハ其丹波國小久しく年序を經させ
御在坐し御齡日足し坐る御事を簡易小云あり
來 爰居于此地ハ其御子天香語山命の天藏を創營し御
在坐す程を云ふ績麻ハ麻を績ひあり養蚕ハ蚕を

△て即御衣知祖母
神、申す謂此小在

ハシラ上^百引^引
播磨風土記飭摩郡
伊和郷の文^百蚕^百落
處者即号日女道
江^百有^百大^百貴^百神
の故事

養ふり傳廿九百四十注^カ如く大已貴命女彦
名神を豊麻神と申して專國土^カ麻苧を殖弘めさせ
給ひ又其九百四十八丁注^セ伊賀國阿拜郡敢國神社大
己貴命を本^カ大己貴命も坐して正^カ二神の
神迹^カを風土記^カ拓植山有神奉申敢國云々と有
ハ養蚕の料^カ已く粟拓を植給へり^カ麻と粟とハ
其二柱神の國作の御時^カ植布せ給へり然れど
も其本ハ豊宇氣大神の御身より出て天上の御物^カ
りければ其二神と雖も直^カ受^カせ給^カふ非^カずも其大神より賜^カり^カ粟麻
を殖初^カ御在^カ坐^カけの右^カ天道日女命等請求

大神と有ハ此^カ又天上の宜^カ種を大神の天降坐
り度^カ更^カ賜^カり得^カせ給^カひて益^カ其術を委^カ
く物爲^カ給^カへり^カけり教^カ人民製^カ衣^カ之道^カと有^カ
天道日女命と申す御名の所以^カ即上百四十注^カ
如く四神出生章第十一^カ書^カ裏^カ含^カ蚕^カ便^カ得^カ抽
繅^カ自此始有養蚕之道焉と見え右の播磨風土記^カ蚕
を日女道と云も女工^カ其女子の道^カ此を以て
負^カ坐^カ御名^カり^カけり御衣知^カ祖母祠の御衣知^カ美^カ祈
志斯流と訓べり知^カ其天道日女命の道^カ當^カれ^カ言
り^カ祖母ハ和名抄^カ於^カ波^カと訓^カて即大母の義^カり^カ

も雅正ハ非ハ元ハ恭ハ天皇二年御紀ハ小戸母此云ハ觀自と
注ハされハ神ハ魂ハ意ハ保ハ乃ハ自ハ神ハと申ハ了ハ御名ハも有ハを例ハと爲ハて
御衣ハ知ハ大ハ乃ハ自ハ神ハと申ハ了ハ事ハと心得ハべし其始ハ小山口坐
祖社ハと有ハも山口坐大乃自社ハと云ハるハ訓奉ハ可ハく
けハ猶皇太神宮儀式帳ハ小朝熊神社ハの所ハ小櫻大乃
氣郡天海田水代大乃自神社ハ多ハ有ハを証ハとハ爲ハべ
小老字ハを書ハるを以ハて猶又考ハる小和名抄ハ老幼類ハ小負
俗作ハ乃自ハ劉ハ向ハ列ハ女傳ハ云ハ古語ハ老母ハ爲ハ負ハ漢書ハ五娼ハ武負
位引ハ之ハ今ハ按ハ俗人ハ謂ハ老母ハ爲ハ負ハ眉ハ從ハ目ハ也ハ今ハ訛ハ以ハ負ハ爲ハ自
歟ハ今ハ按ハ和名ハ度ハ之ハと有ハて甚能ハ叶ハへり然ハれハ右ハハ御衣
知大乃自神ハ乃ハ天道ハ日ハ其高橋郷ハの文ハ小次ハて與保呂
乃里ハ本字ハ所以ハ号ハ與保呂ハ者ハ古老傳ハ曰ハ往昔ハ仍ハ于豐宇氣

大神之神勅於此地神人仕丁等被置之故云ハニ字呂兵
と有ハて次ハ小庫梯山ハ倉部山ハ倉梯川水源ハ以下ハと有ハを以
見ハる時ハハ此里ハハ右ハの倉部山ハ小属ハる者ハと所見ハた
り仍ハ于豐宇氣ハ大神之神勅ハと有ハ小就ハて考ハ有ハり右ハ小天
香語山命ハ於倉部山尾上ハ創營神庫ハ以收藏種ハ神寶ハと
有ハハ田造郷ハの文ハ小往昔天ハ孫降臨ハ之時ハ隨豐宇氣
大神教ハ而天香語山命ハ與天村雲命ハ天降ハ于當國ハ之伊去
奈子嶽ハ天香語山命ハ與天道姬命ハ共祭大神ハ云ハと有ハて
此二柱神ハの仕奉ハる大神ハ小坐ハせハバ其田造郷ハ小齋奉ハる
せ給ハひハつハも其天香語山命ハの御在ハ一坐ハす倉部山ハ小

ツ御霊を

も神寶を扱むる天藏を建て當昔其大神を此處小
置齋奉るを給ひけり此を以て神人仕丁を此處小
置給ふ可き由を曉し給へる者ありけり若て其神人
職負令祝部義解
民部省式小謂為祭主贅辞者也其祝者國司於神戸
中簡定即申大政官若无戸人者通取庶人也と有て此
ハ中古の御定あれども上古と雖も其神孫なりて氏
人の仕奉れ外ハ斯く狀して在り事此小神人仕丁
を合せて與保呂と云を以て知る仕丁ハ其神人小
属て駈使ハる氏を云あり古事記高津宮段ハ所駈
使於水取司吉備國兒島之仕丁と見え雄略天皇十一

年御紀ハ信濃國直丁與武藏國直丁と書され仕丁の
字ハ孝徳元年御紀ハり次ハ見えて直丁仕丁共ハ都
加開能與保呂と訓たり然るハ此小與保呂の本字仕
丁と有るハ唯小然訓あるむ古語ハ有ける若て
神人仕丁等被置之と云ハ此里を大神の神地と定の
此小神戸を置て仕奉るハ給へる御事を申せるハ
り故の下小二字虫食と有ハ三字を誤れり故云
與保呂兵と有ハ事著明りければ今云字を補へり
是即右の天藏社の神地神戸ありけり後ハ其跡
小其祭主と御在り坐ける天香語山命を祀れる者と

△丹波國丹波郡丹波市
村にあり、鎮守神
計ふ此地のあり

所見たり又此倉部山の内ありけり次日尾社祭
神天日尾神國日尾神天月尾神國月尾神四柱祭由以下
食虫と有ハ下文欽て何等の所以とも知れざりけれ
ども此天藏社の邊小御在一坐を思ふ此も豊宇氣
大神の御事小由有て日神月神の穀物小幸給ふ御靈
を申して尾ハ緒（亦同ト）如く打延（連）續（連）義ふれば若くハ
春秋の行易り日月の來經の常在小御在日坐すを称
て齋奉る者ありあや其卅五座の中小天藏社山口坐
祖社日尾月尾社と相並給へる是あり天神本紀あり
供奉三十二神の中小天日神命天月神命と云も有れ

△の上小ハ其上下
つ差も有けり等
此

ども其ハ信難事ふれば今云限小非ず（備）右の神
民部省式（出）たり但三代實録（貞）觀七年五月廿
五日是日制五畿七道諸神社祝部停補白丁（八）位以
上人充之先是置者令終其身自今以後立為恒例と有
る新制の出たり以前ハ祝部（と）雖も猶白丁あり
しあり右小神人仕丁等被置之故云與保呂兵と有て
神人と仕丁とを別たさ共小與保呂ありと見る可
し記傳卅六卷七丁（和）名抄小脛曲脚中也和名與保
呂字鏡小脚與保呂乃須知脚之後大筋（と）有依保
様無（と）も有與本呂ハ俗（と）ふ足の隱曲あり
其筋を與本呂須達と云ふ此も丁より出たる名と聞
えたり云と云れたる如く足を榮（と）して駮使ハる
者（と）云て世小謂其六（七）小大内郷の文有と雖も此小
ゆり人夫是あり

預ぬ事ふれば注さず此郷小十二月（粟）社と申す有
り云く十二月粟神無祠奉（奉）本称神古老傳曰往昔推産

靈神所植而每歲十二月朔日生花全二十日結實正
日取其實以奉大神至今其例不差蓋是神驗三傳奇乎
と有り十二月粟神ハ粟ハ夏日花を生シ暮秋小實
を結ぶ物アリ小此ハ其ハ異シ十二月一月を以
て其始終を成すが奇シキ事アリを以て此木を然稱
へ申セらるり祭本稱神の祭字を奉小作れハ誤カ
るを以て今改引く所アリ稱神ハ稚産靈神の御名を
申さずして十二月粟神を以て其神名と爲る由アリ
稚産靈神ハ右三百十一丁小注奉カ如く四神出生章
第二一書小即軻遇突智娶埴山姫生稚産靈と有る是

少即豐宇氣大神の御親神少カミ渡ルセ給ヘリケ
る備此大神ハ一も大倭本記小天皇之始天降來坐之
時共副護齋鏡三面子鈴一合也の本注小一鏡者云々
一鏡者云々一鏡及子鈴者天皇御食津神朝夕之食向
夜護日護齋奉大神今卷向完師社所坐拜祭大神也と
有を以見レバ其御子豐宇氣大神と共小天上小御在
ト坐す大神小坐を此故事ハ豐宇氣大神と共小の未顯國小
御在ト坐ける程の事少シ其第十一書小謂ゆ天照
太神の大御使と爲て月夜見尊の御天降坐りハ猶
其以前の御事小アリ有ける所植ハ大神の御手自

來田郡阿多古神社ハ一也伊弉丹尊を始奉りて火産
靈神埴山姫神を齋祀りて即稚産靈神の御父母ニ
柱神として渡りて給へれば若くハ丹波國ハ此大
神の本生の地なり其御子豊字氣大神共
坐し居り可し其八小田造郷の文有り所以號田造
者往昔天綱臨之時豐氣大神教而天香六
雲命天降于當國之伊去奈子嶽四雲命與天道姫命
共祭大神及欲新嘗井水忽變而不能炊神饌故云泥真
名井於是天道姫命拔葦以占大神心故名云葦台山四
食虫姫命授四香語山命而詔汝可發三其天留之處必
清地兵命諾而發其矢則到于當國之矢原山即時生根
枝葉青故云四矢原矢原訓則于其地建神籬以迄
屋布

祭大神而始定墾田當巽方三里計湧出靈泉故天村雲
命灌其水六荒水以和四稱真名井亦傍生天吉鳥
以其匏盛真名井水二稱真名井原匏宮也於是春秋
耕田施稻種遍于四方即人民豐故名其地云田造也以
四行虫有虫此虫大己貴少彥名神の當昔虫遙虫
後の事虫此虫小列虫故事虫前後の引合と
成虫事虫以虫序虫注虫加虫可虫右虫
往昔天の下虫欽字ハ孫降の二字あり時と氣との
間ハ隨隨豐字と有虫往昔天孫降臨之時隨豐字
氣大神教而調虫文と所見たり然虫天孫降臨之

之時云々と有ハ天神御子の筑紫日向宮小天降り御
在一坐け御時の御事多り隨豐宇氣大神教と云ハ
大神の御靈實を供奉りて天香語山命天村雲命の天
降著給ふ處を示教させ給へる多り然るハ其始大神
の國土小住せ御在一坐け御時ハ此國小御在一
坐け御事傳十四丁引く攝津風土記小指倉山
中又曰昔豐宇可乃賣神常居指掠山而為膳厨之處後
有事不可得已遂還於丹波國比邊乃麻奈草地と有る
此有事ハ彼月夜見尊の御事小因てる其後天照太
神の大御許小参上るを御在一坐けを右三三小注

ろが如く此卷首小往昔豐宇氣大神天降于當國之伊
去奈子嶽坐之時云々ハ有ハ天火明命の當國小御在
一坐け御時ハ大神の現身なり天降坐一ありけ
れハ其御靈實も此地小御在一坐む事を詔給へる小
予有け次小天香と雲命との間ハ語山命與天村
ツ六字を脱せる天香語山命與天村雲命天降于
當國之伊去奈子嶽と有る事下文小相照して
知る天孫本紀小兒天香語山命異妹穗屋姬爲妻生一
男孫天村雲命亦名天と有る是なり是即姓氏錄在別
下天神小伊勢朝臣天底立命六世孫天日別命之後也

有る底立ハ五底を下上小錯アノイハクシテ一たる少々天五底命
 孫天日別命と有イ少々謂ゆる度會神主の出自是か
 り然れば其天日別命ハ天村雲命の孫イ多々を其裔小
 して度會氏の豐宇氣大神小仕奉れ多々を實小所以
 有る事ありけり
然し倭姫命世記小謂ゆる伊勢國
 造大若子命一名大幡至命ハ其遠裔
 り事ハ然る物少々飯高縣造祖乙加豆知命と有ハ
 續紀天平十四年四月小伊勢國飯高郡采女正八位下
 飯高君笠目之親族縣造等皆賜姓飯高君姓と有る其
 祖多々可イ此ハ天村雲命の裔多々可イハ大同類
 聚方廿二卷小以此段歌藥伊勢國飯高郡里人之家之
 方元者天村雲命之御藥也登美須と有を以證と爲べ
 人多氣連等祖宇加乃日子之子吉志比女次吉彦二
 人ニ有イ其同族少々此風土記志樂郷青葉山の
 文小笠津彦神笠津姫神者丹波國造海部直等祖也と
 云ひ此次小笠水云々即笠水祠彦神笠水姫命にも有

大年羅雲命

笠津彦ハ宇氣都比古と訓む所ありし右の字加
 乃日子と全く同名同義ありを合せ知べしなり豊
 受大神宮祓屋補任次第小天曾已多智命子天嗣梓命
 子天鈴梓命子天御雲命之子也と有ハ大なる譌あり
 此小就て古史第百三十七段微
 小云々事共ハ悉く小誤れり 若て右の天降于當國
 之伊去俗奈子嶽の下小亡たも四字ハ下ありと眞名井
 の所小考る小天村雲命與天道姫命と有イありけり
 共祭大神と云ハ右三百二十七丁小引る大倭本記小一鏡及
 子鈴者天皇御食津神朝夕之食向夜護日護齋奉大神
 云々と有る神鏡イ謂ゆる伊勢國度會宮の御小
 渡り給ふ御事已小傳二十七十八丁小注一奉り是ふ
 り然る小此小其御妃天道姫命と御子天香語山命御

孫天村雲命の御在り坐て天火明命の御名見えこ
せ給ハバカハ天道姫命のこ此小留し坐て
天火明命ハ其天孫降臨の以前小復命一給ひて此度
ハ天香語山命御父子のこ其供奉して天降給ひて天
火明命の河内國河上哮峯小天降給へハ此よりハ
遙小後あり故小此小預し給ハバカハ事右二
九十小注る趣を以て曉り可一及欲新嘗ハ卷首小天
道日女命を以て定水田陸田云々故云田庭に有る其
女神の始より作給へる御田の稻を以て今大神の御
為小仕奉しむと爲て己命の新嘗を兼て其御舉御在

一坐す御時を云あり井水忽變而不能炊神饌と云ハ
大神の此地より外小御在り坐る處を欲し給ふ故
あり故云泥真名井と有る此井水ハ卷首小天道日女
命等請求大神五穀及粟蚕等之種冥使於其嶽堀真名
井灌其水云々有て先小大神の現身して御天降坐
し御時よりの井水あり一が今茲小泥土の爲小搔濁
されたる故小泥真名井とハ号られたる由あり右
小引る攝津風土記ハ丹波國比達乃麻奈草と有て
此を比奴と云ハ後の事あり諸右小伊去奈子嶽と云
ハ沙子嶽と云事あり真名井ハ真沙井あり凡て砂礫

是即次...
如く天...
命ヲ持降給へる
高千穂宮の御井
の神水の此矢原山
小移りし者所見
たり但
△和名校小謂り新
沼郷有此井水の
泥水と成し此時
の謂り依りけ
む

御心
外小移
山小依

の地ハ水ふるも清在る物ふるを泥土との地田と成て
 水の濁初た多ハ大神の此ハ御在坐す成ぬる兆ふ
 り丹後風土記ハ丹波郡郡家西北隅方有比沼里此
 里比沼山頂有井其名云麻奈(草)井今既成沼云々と有
 ハ始ハ井あり所の沼と成れ故ハ比沼と云事と
 成れ由と聞えて此沼と成れハ右の泥の爲ハ濁
 れハありの事と所見たり飲一盃吉万病除其一坏之
 直財積車送之其時其家豊而土形富故云土形と云ハ
 又或木ハ爰天女善爲釀酒一飲除百病酒價滿度又
 能植五穀土形肥稻穗美仍名此處云土形里今云比沼
 とハ有て此趣ありハ本ハ土形ありを後ハ比沼と
 云と聞えて同ト風土記の内ハ少て此と彼と打合さ
 が不審ト云小就て門今考るハ此土形と云ハ大神

△其水濁て跡のこ
 残り多事成れ
 (其) 其時ハ此古風土
 記を見り程
 あり

の未細く御在坐し程の御事少て謂ゆる昇天以前
 あり若て此嶽ハ伊去奈子嶽と云ガ當昔の名あり
 を右の故事ハ依て此邊と云事と成れガ里の土形
 と山の泥と一ハ成て遍く比沼里と云ふ名と成り後
 小泥水の沼と成故ハ氷沼と云事ハ成れハ
 り此事ハ傳十四卷三十六丁のハ未盡さ
 り事有故ハ今又云あり神名式ハ丹波郡比沼麻奈
 爲神社和名抄ハ新沼郷と云有上件所由ハ
 於是天道姬命拔葦以占大神心と有ハ此命の先ハ五
 穀及桑蚕の種を賜りて給へハ大神の現身ハ御
 在坐て天降しを御在坐ける御時の御事あり
 ハ直ハ其御言をも受賜りて給へるありハ此ハ
 其大神の御形實を齋奉しを給ふ御時ありガ故ハ御
 占を以て大神の御心をト相奉しを給へるあり故名

云葦占山ハ其葦占を物爲るを給へる處の謂是なり
右三百丁引る順國志ハ比治の眞名井原邊ハ磯砂山
苗原寺と云寺有り此後山を比治山又足占山と云ふ
豐宇賀能咩命天降るの山多故ハ如此云る見
えたる是るり儲葦占山と姫命との間ハ是千時以天道
の字を脱し授と香語山命との間ハ弓矢於天の四
字を脱せり少く全クハ是千時以天道姫命授弓矢於天香
語山命而詔と有べき文あり此ハ其葦占ハ依て大神
の他處ハ迂御在坐む御心を知して其弓矢を授給
ひしハ此御占ハ出たり者と見えたり汝可發三其

矢ハ其矢を三度發りて試む可しとあり留之處必清
地矣ハ其三發の矢の留る處是大神の求給ふ宮處
あり由るり命諾而ハ天香語山命の義引と申され
を云ふ發其矢則到當國之矢原山ハ與謝郡丹波郷よ
り此伽佐郡田造郷ハ至りて其天天の留る由あり
即時生根枝葉青ハ其矢の留る根笑此を生たるを
云ふ故次の下ハ例ハ依て號其地云の四字を補ふ
可し然して此ハ故號其地云矢原矢原訓屋布と有べき文
少く天生の義あり則て其地建神籬以迂祭大神ハ此
下文ハ謂ゆる物眞名井原匏宮是れ此時より大神

ハハハ又ハ雄略天
皇三十二年ハ伊勢
國度會宮ヲ移奉
ルル後式外ハ
成レ給ヘリ猶
考ふ可キ事ナリ

日彼天村命命天
上ハ持降給ハ
水ノ伊去奈子嶽
洞此ハ湧出ル

ハハハ加佐郡田造郷ハ多志延シモ給ヘリケル神名
式小謂ゆハ笑原神社ハ此小當(向)丹後旧事記小
氣比賣命赫池姫大明神在矢原村ト云ハ右三百廿五
丁小注セリ與保呂乃里小御在坐神社小當リテ
此矢原山神宮ニハ別あり猶正シテ後小注す可キ
あり又淡路國三原郡笑原神社今ハ矢原村小御在
坐ヲモ此ハ夜波良ト訓ハ五篇ハ笑式氏切俗矢字
ニ有リ此小依れり多志延シモ此ハ右ノ故事ハ依
和名抄小乃波良ト訓たれども此ハ馬國養父郡水谷神
夜波良多志事決者多志延シモ但馬國養父郡水谷神
社名神大を續風土記ハ保食神を祀れりト云ハ因夜
夫坐神社五座の中ハ保食大神推産靈神月夜見尊を
祀れりト云一説ハ有ハ此矢原次小始定壘田ハ卷首
ノ地名小就テ由有ル事ナリ

小定水田陸田ト有ハ等一々大神ノ神田を此ト食た
ル神地小定の奉ルル多志延シモ當翼方三里計湧出靈泉

次條ハ笠水訓字介一名真名井在白雲山之北郊ト有

ハ是少シ右ノ伊去奈子嶽あり井水ハ此小移れり

者多志延シモ其泉ノ下ノ六字ハ右小定壘田ト見え天同本

記水取文ハ食國乃水波未熟荒水ハ在介ノ文ハ取テ

則未熟ノ三字を加ヘ荒水以和ノ下小故號其地ノ語

を添テ全クハ灌其泉於壘田則未熟荒水以和故號其

地稱真名井ト調ふ可キ文ト所見ナリ然シテ灌其泉

於壘田ト云ハ卷首小便於其嶽堀真名井灌其水以定

水田陸田(與)ト有ト同ト意味ハ心得ベシ未熟荒水以

和ハ神祇令大忌祭義解ハ令山谷水變成甘水浸潤苗

和ハ神祇令大忌祭義解ハ令山谷水變成甘水浸潤苗

ハハハ小國ハ雄略天
皇三十二年ハ伊勢
國度會宮ヲ移奉
ルル後式外ハ
成レ給ヘリ猶
考ふ可キ事ナリ

△若て此小匏の生
出たる大神の此
水を以て炊きたる
神饌を聞食を
し欲し給ふ其瑞
の見られし事なり

稼得其全稔^中と有る此小當て心得べし故號其地称真
名井ハ其伊去太子獄の真名井彼處ハ絶て此小出
來れどもを以て其称を此小用ふる事亦其傍生天吉
葛と有る此物の事ハ傳九^{六十}五^丁小注り以其匏盛具名
井水の匏ハ後小謂ゆる杓みし水を盛る料ある事傳
十九^{三百}十一^丁ハ小注る如く水の下ハ而即の二字を
脱せりけむ事此語の續る依て知る神饌長の續
きハ遠仕奉故の四字無てハ文義相貫らず然して
此文ハ以其匏盛具名井水而即調度神饌長遠仕奉故
称真名井原匏宮也と有るありけり其調度神饌と云

ハ上小井水忽變而不能炊神饌と有る神饌をハ此小
出たる真名井の靈泉を以て改めし炊と仕奉るを云
ふり長遠仕奉ハ天村雲命より以降歴世ハ神饌を真
來るを云り真名井原ハ右小謂ゆる天原^ヤ山^{ヤマ}の事ハ
れども又此靈泉を以て地名とハ成れり匏宮ハ上小
郡名の所小與佐郡と本字匏と有るを以見小匏をも
件の天吉葛の訓と同ドク爲て與佐と云ふ可一萬
葉七^{二十}八^丁小青角髮依網原と有る青實^{イワヒツラヨク}蔓匏と續けて
地名の依網^網小云係なる者あり此二を以て匏小與佐
の訓有る事を知べし然る時ハ雄略天皇天御世小皇

太神宮の大御諭の大御言御在坐豊宇氣大神を
伊勢小迎奉り給へり此真名井原匏宮より
振奉り給へり然る小等由氣宮儀式帳小
丹波國比治乃真奈井坐我御饌都神等由氣大神乎云
と見え倭姫命世記上代本記等小丹波國與佐之
小見比治一本之魚井原坐と書小雜例集小丹波國
與佐乃比治乃真魚井坐と云小諸雜事記小坐丹後
國與謝郡真井原須と作たる共小比治乃真奈井を云
小其以前小御在坐況真名井と後の真名井原匏宮
の匏ヨリハ比佐古とも云く傳へ混れたる可事此風

上三下小舉り
伽化郡の坐
豊宇氣大神
田造神坐
而即人民受其恩

以下四行虫食ハ伊
勢國へ御坐幸
御事あり可
今傳りし
其可憐し

土記を正し其誤を知べ者多り次小於是春秋耕
田ハ天村雲命の爲を給へり況施稻種遍于四方
ハ其始田庭少作給ひ稻を此小殖給ひ其坐小
稻種を天下四方小遍く弘給へり由あり即人民豊富
故名其地云田造也と有る田造ハ佃少田を作る謂
ありウケヤ此より其郷名とハ成れる者多り諸右の如く
匏宮ハ伽佐郡田造郷の中ハ在り雖も郡名の定よ
る時此をバ笠郡と号け隣をバ匏郡と云分てる小こ
了ハ有けれ互小相及りて唱たり者と所見たり
其真名井原匏宮より上りて一峠を越れば即與謝郡
少在けれハ右の如く諸雜事記小ハ丹後國與謝郡

と有るなり若て倭姫命世記小崇神天皇三十九年壬戌
遷幸但波乃吉佐宮積四年奉齋從此更倭國求給此
歲豐宇氣神天降坐奉御饗と吉佐宮也此同所小在
今も外宮内宮と申して甚神一杜二所三小在
けるハ古より違ハざる神地多事申すも更なり又
丹波郡比沼麻奈為神社ハ其伊去奈子嶽の田地小祭
る也給へる者あり大同類聚方十八卷小真名并樂友
波國又波郡天比沼麻奈為神社仁所傳之方宮造等奉
留方也と有る此丹其九小云く笠水訓宇介一名真名
波郡ふる神社あり美都

井在白雲山之北郊而潔清如麗鏡蓋是當于豐宇氣大

神降臨之時所二字湧出之四字深也三尺許其迴也壹

而廿二步炎旱一本不見增減其味也如甘露以

藏至治之機一本焉傍有二祠東者伊加里姬命或稱

豐水富神矣而者笠水神即笠水彦命笠水姬命之二神

此則海部直等三字祖神以下出と有る笠水訓宇介ハ
右小湧出靈泉云々稱真名井と所見なる是なり其笠
水を宇氣介美都と訓む事ハ上ふる伽佐郡の文ハ伽
佐郡者舊曰笠郡之字訓曰宇氣乃己保利所以共稱宇
氣往昔豐宇氣大神留座于田造郷美原山而人民受其
恩賴故曰宇氣也と有る如く此大神の御在り坐小依
て其田造の事ハ靈泉の事ハ其恩賴を受奉る故
小郡名を宇氣乃己保利と号け神水を宇介美都と稱へ
て名と爲るなり在白雲山之北郊ハ其美原山南の南小
當りて白雲山と云有る其二山の間ハ在る郊原ハ在

る由あり潔清如麗鏡ハ云ハ其真名井水の清麗
て靈泉あり形状を云あり益是當于豐字氣大神降臨之
時ハ右ハ則于其地建神籬以迓祭大神と有て大神の
御心ハ依て此地ハ迓奉る御事を申せらあり時の下
ハ于此の二字脱たる可く之深の間ハ靈泉也其
の四字を補ふ可くして其文ハ所于此湧出之靈泉也
其深也云々と續く可き所あり炎旱不と不見
増減との間ハ脱文ハ大同本記ハ其水大旱魃年母不
涸と有ハ取て涸の一字を得て炎旱不涸と云一句を
見出たり下ハ不見増減と有ハ資て霖雨不溢と云ふ

對句の正ハ在べきを知て凡て此ハ五字を得たりと
雖も猶不足るハ自古而と云三字あり上下の語脈相
連く所ありハ炎旱不涸霖雨不溢自古而不見増減と
有ハ文あり可く所思えたる其味也如甘露と云ハ
上ハ荒水以和と有ハ如く水の能熟れ出るが為あり
大忌祭詞ハ山ハ自口狹久那多利ハ下賜水乎甘水
登受而天下乃公民乃取作礼奥都御歳乎惡風荒水ハ
不相賜汝命乃成幸波賜者と有る甘水も右ハ同ト以
主治之機焉と云ハ百病を除く如き功有る由あり可
ハ大神の恩頼ハ因て湧出る靈泉ありければ實ハ然

る主治の能有つしむ事更小疑ふ可小非小此大神
の御身より生出たる五穀粟蚕の類ハ天下蒼生の身
命を續く可小珍寶ありけり物を況て其靈泉小然る
功能を備へたりけり此大神の御上の於てハ何計の御事小も非小る
一此大神の医薬小御靈を幸ひ御在小坐す御事ハ
右件小引小此丹後風土記小爰天女善為釀酒飲一
盃吉万病除之小有小更小此大神の始小給へる
酒ハ小百薬の長小云て其功神の如く又大同類
聚方十八卷小真名井薬及波国反波郡天比沼麻奈爲
神社小所傳之方小云事有り又其十六卷他紀波良薬
龍原真人豊雄之奉留方元者豊受姫尊之神久須理と
見えたり此一二件の事共を以て其恩頼の万小直
りて大小御事共を傍有二祠ハ其真名井の靈水を
見奉り知べき者小傍有二祠ハ其真名井の靈水を
主り御在一坐す神と所見たり東者伊加里姫命ハ皇

次神宮儀式帳末官知田社の中小葭原神社大歳神兒
佐津比古命形石坐又宇加乃御玉御祖命形無又伊
加利比女形無小有三神の中の伊加利比女ハ傳廿
六七丁小注せる如く稻薊姫小稲穀を薊藏る事を
主と神小御在一坐せば此大神の御許小ハ必御在
一坐つ可小御事あり太神宮行事記二月例小鉾山伊
賀利神事有ハ鉾柄を山小採り又稻薊の事小就たる
神祭あり小合せ思ふ可小者あり或称豊水富神と云
ハ伊加里姫命の一名あり小非小此祭神の異説あり
此ハ神武天皇戊午年御紀小是後天皇欲者吉野之地

乃從菟田穿邑親率輕兵巡幸焉至吉野時有人出井中
光而有尾天皇問之曰汝何人對曰臣是國神名爲井光
此則吉野首部始祖也と有る此ハ合ス事有り其ハ姓
氏錄大和國神別地祇小吉野連加弥比加尼之後也謚神武天
皇行幸吉野到神瀨遣人汲水使者還曰有井光女天皇
召問之汝誰人答曰臣是自天降來自雲別神之女也名
曰豐御富天皇即名水光姬今吉野連所祭水光神是也
と所見たタ右ハ豐水御富ハ決ク此ハ豐永富神ト同
神リけり右ハ自天降來自雲別神ト申ス名有小此
小笠水訓字介一名真名井在自雲山之北郊ト有テ此
美都

豐水富神の御在り坐す真名井小隣りて自雲山の稱
有ハ如何カ得去ル所以ハ有ルけりハ皆其自
雲別神ハ正シく天村雲命ノ一名カり彼大神の御
心ハ依テ此地ハ神籬を建テ給ヒて仕奉給ヘ御
時ハ其自雲山ハ此神の住處アリけむハ其神
の御名を負テ此ハ自雲山の名有るハ然レ思定め
るハ運ビふハ成ルりけり次ハ小笠水神即笠水彦命
笠水姫命二神ハ青葉山志樂郷の下ハ笠津彦神笠津姫神者
丹波國造海部直等祖也ト有テ同神ト思フ其伽
依郡の文ハ豐宇氣大神留座于田造郷笑原山而即人

民受其恩頼故曰宇氣也と有も其天村雲命の此大神
 を齋奉ふれたるが大神の大御心小和ひ給へればこ
 り笠郡又笠水の称ウケ郡起れりありければ小故有て起り此地名を以
 て称申す小其より以後の人るるよりさあり此神を
 祀りて其受水の主護神として即其妹妹二神の御名
 とハ称奉れり者ありけり此則海部直等の下ハ所
 祭之祖神と有べさ文ふる者あり備此海部直等(四)の
孫本紀を見り小鏡速日尊の兒天香語山命孫天村雲
命の其六世孫建田皆命の下小神服連海部直丹
波國造但馬國造等祖と有る事なれば此命を以て
此其笠水の故事小依て然称申す可き小非ず況て其
間二三世の命等ハ猶更の事ありければ天村雲命
より外小當べりさ者あり且其大神小仕奉りて

又天ト其各并トの故
 事此小在

此所小御在ト坐ければ天村雲命の妹妹二柱を然称
 申せり事決くるむ有けり又白雲別神と申すも天の
八重雲を別て天降り坐る備今此風土記を讀み至りて
 由の御名あり者あり古書の疑ふ可き者三出來れりけり一ハ天火明命
 の己く大己貴命少彦名命の國作の御時小天降り御
 在ト坐けりあり其事ハ上二百九十八丁小辨へたり二ハ
 天香語山命天村雲命の豐受ト大神の供奉りて此小天
 降り坐るあり三ハ天村雲命より次ト此國小在て
 其大神小仕奉るト給ふと云ふ古傳の趣小取を水取の
 故事の高千穂宮小在つる古説小違ひて惑りト事

の多ニ在ル小就テ今其二事ヲ少ク辨ス可ク其水取
の故事ハ神宮雜例集ニ載ル大同本記ニ皇太神宮皇
孫之命天降坐時ハ天牟羅雲命御前立テ天降仕奉時
尔皇御孫命天牟羅雲命ニ召詔シ食國ノ水波未熟荒
水亦在リ故御祖命御許ニ參上此由申テ來シ詔即天
牟羅雲命參上テ御祖御前ニ皇御孫命ヲ申上給事乎
子細申上時御祖尊詔久雜尔奉テ政波行奉下天在止
水取政遺天在利何神乎加奉下年思間尔勇乎參上來
止詔天天忍石乃長井乃水乎取八盛天誨給久此水持
下天皇太神乃御饌尔八盛又皇御孫命乃御水尔八盛

献天遺水波天忍水止食國乃水於尔灌和天献初又御
伴尔天降奉仕神等八十友乃諸人仁斯水乎令飲詔天
下奉支即受賜天持參下天献時仁皇御孫命詔久從何
道曾參上志問賜申久大橋波須賣天神皇御孫命乃天
降坐乎恐天從小橋參上支申時詔久後仁恐仕奉事勇
乎志詔天天牟羅雲命天二上命後小橋命止三名賜也と
有ハ此伊去奈子嶽小大神ノ供奉リて御在一坐リ
ハ以前小高千穗宮少仕奉リル御政乃上代本
記小即時日向高千穗宮乃御井定崇居焉奉仕其自尔
以降但波魚井石井尔鎮移居水戸神奉仕岐云と有

て其時小高千總宮小御井仕奉りて此より皇御孫
尊其天津水を聞食し初て給ひ自尔以降但波魚
井石井鎮移居と云ふ右小謂ゆら笠水訓字介一名美都
眞名井と有る是少し豊宇氣大神小属たる神水是ふ
り水戸神奉仕岐ハ水戸を母年登と訓り即水取の略
少く即右小云ら笠水彦命笠水姫命小當れりハ決く
天村雲命の亦名る事も此小至りて明愈らるる者
小るむ有けり又其上代本紀小其後從魚井乃原遷于
止由氣宮乃御井居止焉と皇有て豊宇氣大神の伊勢
小遷幸の御時小其御水匠移奉り由ゆら大同本記

小又云其後豊受神宮乃坤方乃岡片岸小新堀御井
天忍井水乎入加豆當朝之水小和合豆末之世乃御膳
調備料小移置給水也と有る是より斯る時ハ異説小
似て異説小非ず其次序を正し見り時ハ事小前後有
りのまら有りければも異るる所無き者ありり
但此ハ取立て此小云べき事小非ずと雖も風土記
の文と神宮の古傳と小違有が如く見えて今此事
を注す時ハ更小天下の人の惑を生ず事あり故小
今茲少云らり彼二十一社記水天孫降給時
諸神申葦原中國者潮也可何仍供奉神中天叢雲命
神天上還皇祖申給即瓊珀瓮入給之と云事有り然
て右小天村雲命を水戸神と云即神名式小主水司
坐神一座鳴雷神社と有る是より何を以て鳴雷神と
申すりと云ら右小白雲別神と云名有と等しく
天八重雲を稜威の道別小道別て升降給ひて水取の

御事小仕奉る者 諸又傳十五二百十四丁十六丁十
給へる謂小く 九百十丁上九丁小注せり如く宗像三女神ハ
專此豐宇氣大神を所祭り御在り坐す由り右小
天村雲命與天道日女命共祭大神と有て其御事の見
えとせ給ハさハ此ハ天上より供奉る其御靈實
を祀奉るの事ハ狭くを宗像大神ハ
其御靈實小限る凡ての御靈を齋奉るを給ふ御職
少て渡りせ給ふが故小市杵島姫命と申奉る御事ハ
少且大己貴少彦名二神の國作の御時ハ此女神
も物為とせ給ふ可くハ其伊去奈子獄小就て

齋仕奉る給ひけむと思ゆ御事ハ上九十小注る
が如く丹波國氷上郡伊都伎神社丹後國與謝郡須代
神社宇良神社竹野神社ハ此大神ハ御在り坐を大同
本記あり皇太神の御誨ハ高天原坐我見志末岐宮處
亦鎮理坐天後經年間吾一所耳坐禮御饌安不聞食吾
高天原亦在時素戔嗚尊乃十握劍乎索取三段打折互
所生三女神乎葦原中國宇佐島降居道中奉助天孫而
為天孫所祭止詔之神今丹波國與佐乃比沼乃真名井
坐互○神名帳考證所引曰素戔嗚尊所生三女神奉助
天孫而為天孫所祭止詔之丹波國與佐乃比沼真名
井坐須云齋奉御饌都神止由居乃神乎吾坐國欲止
勢理姫

△此より但右の天村
雲命の六具御霊
實小仕奉給へる故
小具御事逆祥小
傳りぬるを此三神
ハレ其御霊小
仕奉り御在り坐
るに現小其御
事逆を傳へたる文
の無きありけり然
り

誨覺給_支と有を以て此少も其御霊實小仕奉りせ
給へる御事を見奉り知へり世記ハ其御事を載す
と雖も其御鎮座の所小又須佐乃乎命御玉道主貴社
定粟御子神社是也と有を以ても其時此三女神をも
此小移奉れり御事を知へるあり但此其御社の御事
ハ上_{二百六}小注せり如く同記皇仁天皇廿六年條
小其處參相氏御饗仕奉神_乎淡海子神_{止号}互社定給
支と有て儀式帳小粟御子神社一處稱須佐乃乎命御
玉道主命形石坐倭姫内親王定祝と有小合て本あり
其地小御在り坐す神小坐を其豐宇氣大神小属奉り

△即高橋氏文小ハ
此御八良津神と
稱奉り阿波大神と
稱奉りをも思
思ふ可き者あり

せ給ひて丹後國小御在り坐す三女神の御霊を此
小迎奉りて合せ祀り御事を申せり小こ子ハ有
けり諸粟御子神と申す粟ハ古事記小粟國謂大宜都
比賣と有ハ傳六_{百十}十四_{百三十}小注るが如く豐宇
氣大神の本生の地あり國名小負物と見え
られバ其大神の齋と爲て仕奉りせ給ふ由小依て其
御子神と稱奉りあり上る御田口祠の父小天照
太神分靈子豐宇氣大神と有小等一り可き者あり
然れバ右の淡海子神と有ハ借字あり粟御子神と申
す意ハ右件より如く_{みつけられ其大神の}丹後國小御在り坐し御時

此も専ら奉り御在り坐りけり見えて御名ハ有るなり
よみし然称奉れ者と所見たり即神名式小阿波

國名方郡天石門別豐玉比賣神社ハ此三女神あり渡

りて給へる御事己小傳二十五ハ注し奉れり心

を著て考奉る可くころ又此小就ても麻殖郡天村雲

右小詔ゆり笠水彦命笠水姫命二柱ハ御在り坐り

此大神の本國ハ御在り坐り仕奉り

高千穂宮より其御靈寶を供奉しハ彼伊太奈子嶽

小近奉りし時ハ諸國を經て給ふ可くめり

其御迹處あり有るべし但天村雲命より次

仕奉りしハ其御靈寶ハ仕奉給へるありを件り

女神ハ其御神の御靈ハ属して奉り給へるありけり

ハ右の皇太神の御誨の御在り坐りハ非ずハ何て

ハ其然る由を其十小允海郷の文有り允海者郷者

ハ得知り奉りし

往昔去此田造郷方伐濱四十三里三字三十五里二步

四面皆属海壹島一本云壹也所以称允海者三字往昔

治天下當大穴六字到坐于此地之時列集海中三字小

島小島允拓以成壹島故云允海二字寶元年三月

己亥地震三日不已此郷一衣四字海漸纒郷中之高山

二峰與立神岩出海上今號云常世島亦俗称累島女島

每島有神祠所祭者天火明神與日子郎女神也是海部

直并允海連等所以齋祖神也以下ハ有允海ハ和

名抄小於布之安萬と注せり去此田造郷方伐濱四十

三里と有ハ海上の路程を云あり其三字虫食ハ去笠

濱と有けむ其ハ上三百十小注せり枯木浦の故

事と專一あり趣ありを其小笠松山と云名有る其小
對へて笠濱又ハ笠浦ふと云地名の海濱不在べく所
思ゆればあり四面皆属海壹島也其海中あり一島
あり一趣あり一本ハ壹之大二島也と有る二字ハ衍
して壹之大島の謂ある可し所以稱允海者の下ハ
古老傳の三字例ハ依て補ふ可し大宛の下ある虫食
ハ持命少彦名命の六字あり往昔當治天下當大宛持命
少彦名命到坐于此地之時と有る文あるが當田字錯置
あり今改めて右の如く作る事ハ上あり志例共小樂郷擬へ
る者あり海中と小島との間ハ所在之三字脱亡た

るして全くハ列集海中所在之小島と有るべき所あり
て柘木浦の文ハ欲令海路順次所在之渚島集合之と
有る此御事を此ふも云あり列集の字ハ右小四嶼自
來列と有る其小同し小島允拈以成壹島の拈字ハ名
義抄ハ拈を年須夫又阿那具流又加邪志又久々流又
多々年又登流と訓たれば允拈の二字を下小見八於布志都久
みど訓べと少也を思ひれは猶允ハ須倍氏あり可き者あり故云允海生ハ其小島の列集りて大
島と成れる謂ハ依りありあり下ハ是海部直允
海連等所以齋祖神也と云ハ右の二柱神ハ御在
坐すて天火明神の御妹妹を渡りて給へるを見小

此ハ彼枯木浦（依て出来れ島）ノ故事（連の其祖神）アリト島ハ凡海郷（連の其祖神）ノ所（依て領地）故ハ凡海（依て領地）ハ云々（依て領地）故ハ故ハ小島ノ列集（依て領地）事ハ就て云凡海（依て領地）ハ傳（依て領地）ハ天火明神（依て領地）ヲ渡（依て領地）給ハハ彼二柱神（依て領地）限息號呼（依て領地）以日彼ニ來則四嶼（依て領地）自來列（依て領地）ト有を思ふ石ノ二柱神（依て領地）ヲ號呼（依て領地）ひ給ふ應へて件（依て領地）ノ四嶼（依て領地）を列集給へハ其神（依て領地）小御在（依て領地）一坐（依て領地）を其裔（依て領地）ノ海部（依て領地）直并凡海連（依て領地）ノ祖神（依て領地）齋奉（依て領地）縁（依て領地）由（依て領地）て凡海（依て領地）ニ云地名（依て領地）ハ成（依て領地）れ（依て領地）右ノ二柱神（依て領地）ノ御事（依て領地）ハ係（依て領地）て云へ（依て領地）ハ非（依て領地）る（依て領地）を小島凡拓（依て領地）ノ凡字（依て領地）小眼（依て領地）を著（依て領地）時（依て領地）ハ中（依て領地）ノ小文義（依て領地）小闇（依て領地）成（依て領地）者（依て領地）ズ（依て領地）ク

儲其凡海（依て領地）と云ハ海部（依て領地）を總領（依て領地）由（依て領地）て猶凡大海部（依て領地）云む（依て領地）如（依て領地）一姓氏（依て領地）録（依て領地）右京（依て領地）神別（依て領地）下地（依て領地）祇（依て領地）凡海連（依て領地）海神（依て領地）綿積命（依て領地）男（依て領地）穗高見命（依て領地）之後（依て領地）也又攝津國（依て領地）神別（依て領地）地祇（依て領地）凡海連安曇宿禰（依て領地）同祖（依て領地）綿積命（依て領地）六世（依て領地）孫（依て領地）小栲梨命（依て領地）之後（依て領地）也（依て領地）ト有（依て領地）ハ海神（依て領地）ノ子孫（依て領地）此（依て領地）ハ同（依て領地）ト（依て領地）雖（依て領地）其（依て領地）阿麻（依て領地）と訓（依て領地）其漁人（依て領地）ノ事（依て領地）を（依て領地）云（依て領地）ハ其海上（依て領地）を阿麻（依て領地）ト（依て領地）古（依て領地）云（依て領地）ザリ（依て領地）アリ（依て領地）于（依て領地）ノ下（依て領地）ノ欽字（依て領地）ハ時大（依て領地）ノ二字（依て領地）于（依て領地）時大寶元年（依て領地）三月（依て領地）己亥（依て領地）地震（依て領地）三日（依て領地）不己（依て領地）ト有（依て領地）ハ其文武天皇（依て領地）御紀（依て領地）同（依て領地）年（依て領地）三月（依て領地）己亥（依て領地）丹波國（依て領地）地震（依て領地）三日（依て領地）ト有（依て領地）ハ證（依て領地）ト爲（依て領地）ハ此月（依て領地）甲戌（依て領地）朔（依て領地）ハ己亥（依て領地）ハ廿六日（依て領地）ハ廿八日（依て領地）ハ至（依て領地）リ（依て領地）止（依て領地）ぬ（依て領地）ハケリ（依て領地）一衣（依て領地）ハ一夜（依て領地）を誤（依て領地）ル（依て領地）ハ蒼（依て領地）と海（依て領地）ノ間（依て領地）ハ田變（依て領地）而（依て領地）爲（依て領地）ハ四字（依て領地）有（依て領地）ハ此郷（依て領地）一夜（依て領地）蒼田（依て領地）變（依て領地）而（依て領地）爲（依て領地）ハ

有るふのり漸絶郷中之高山二峰與立神岩出海上こ
云ハ右の一木小壹之大島也と云ひ此一島を以て凡
海郷と云を以見れば實ハ頗る大島と成て在るあり
けり彼柘木浦の文小四嶼自來列と有て其始四嶼を
合せ給へるが絶小郷中ハ立る高山二峰の男島女島
と成て海中ハ存り其ハ属て立神岩と云ふ大岩の海
上小聳て頭ハれ見ゆハ由あり今號云常世島と云る
ハ此記を書されたるハ和銅の頃少く大寶あり僅小
十年餘の事ありハこく常世島の名を呼ぶ事と成れ
るあり亦俗稱男島女島ハ右の高山二峰ハ本より天

大明神と右神との御坐所ハ有ければ男山女山の
名を以て呼けむと今別ルテス海中の島と成れば故小男島女
島とハ号云ふこ有けり一毎島有神祠ハ其神社の
部小凡海坐息津島社凡海息津島瀬坐日子社と有る
是ハ當りの所祭者天大明神與日子即女神也と有る
即右の二社小祠ハ所是あり是海部直并凡海連等所
以齋祖神也と云ハ上小青葉山の文有て笠津彦神笠
津姫神者丹波國造海部直等祖也と書一笠水の下小
即笠水彦命笠水姫命之ニ神此則海部直等所祭之祖
神と有ハ其孫天村雲命夫婦少く坐る小天孫本紀小

六世孫建田皆命を海部直丹波國（造）但馬國造等祖と有
を合せて允海連も其同族たるを知べし此小就て考
る小其四世孫瀛津世襲命の瀛津ハ右の息津島小出
又世襲ハ與佐と同（トク）彼真名井原匏宮小仕奉られ
た小依べくや侍（モ）此島ハ上（三百十）栢木浦の故
事小引出たる稚狹考と云物小丹後國訶佐郡の方へ
関きて海中小周廻三里小及ぶ島有り小島（ノジマ）と云ふ云
社有て老人島大明神と云ふ同國河守里天神宮の
社人此社を河守（預ル）ハ昔故有ての社あり式の籠神社是
ありと云ふ其社人と云ハ此小謂ゆる海部直允海連

の裔孫と云ふ所見なりけれ若て其河守里の此郡の
川守郷小ハ非ず神名式小與謝郡籠神社名神是（大）ある
か其ハ傳十（四百三十一丁）小注（カ）如く海神（ワタカミ）小御在（一）坐て
攝津國任吉郡大依羅神社四座（並名神大月ハ與謝海
神と申す義（カ）此より移奉れる者と思（カ）其祭
神を月讀尊大己貴命五十師命垂仁天皇と云ふ小其
月讀尊の荒魂ハ海神小御在（一）坐てハ其本末の差有
の（カ）あまを姓氏録（和泉國神小網津守連大明命男天
香山命之後也と有て津守連と相並べハ其本社と
有る籠神社小仕奉る縁小依れる者と所見（カ）と云ふ

思合す可き物者ありり先ハ籠神社ハ天水分神
と説ふり事傳十卷云々如然時ハ其神社
縁少テ鎮り御在坐少右の大依羅神社の五十師
命ハ少考名神と峯相記少考命と有と誤り又
其五十回瓊敷命の縁少テ坐仁天皇を相殿神と爲
少テ凡て右の網津守連の事少就テ思ふ天火明神と
連饒速日命十二世孫懷大連之後也有天神依羅
小物部多波連公依網連等祖と見え推古天皇十六年
御紀小物部依羅連抱と云人名有神名式小與謝郡
物部神社有此ハ天香語山命の紛脈小非ずと雖も
同ト天火明神の裔多ハ所由有又攝津國皇別
小依羅宿祢云々考坐命之後也有とを合せて右
の大依羅神社ハ此國小起り事を知べきあり右の
老人島大明神ハ此國小起り事を知べきあり右の
を本ハ凡海島神と云々あり可十一小有道郷の
故事有り其文小云く有道郷本字所以號有道者往昔

天火明命飢到于此地之時隨往乎求食所以連行所以蟻蟻則見
土神在穴巢國天火明命請食五神喜以奉饗食種盛饌
故天火明命賞土神且詔曰尔後妙須以蟻道考大食持
命爲稱焉故曰蟻道也亦有神祠云蟻巢今稱阿良須者
訛矣以下七と有ハ天火明神の始テ此國小入立御在
坐了初少大已貴命少考名命より未彼志樂郷を
進らせり此程の御事あり可一飢到于此地之
時ハ未其領を知得させ給ハ此を以り隨往乎求
食と云ハ糧食を貯へさせ御在一坐了り故小道次
小テ求めさせ給へるを云ふ所以連行蟻蟻則ハ即穴

巢を成^{見出給ふ}す所以と聞ゆ但本^ハ蟻と有と一宮本^ニ云
小蟻蟻と有と取れ^ハ蟻ハ人家近^シ地^ハ多^ク在^ル者
ある^ガ故^ニ蟻と相連^リ行^ハ見行^ハ御在^リ坐^テ此
邊^ハ人在^リけ^リと所知^シ食^セ給^ヘ御事^ト見え^タリ^ト土
神^ハ猶^モ國神^ト書^ル小等^ニ此邊^ヲ主領^ケ地^ニ主神
と云^{アリ}穴巢國^ハ此郷^ノ舊名^{アリ}字^ノ如^ク穴^ハ掘
る^神の謂^ルる^可き^ハ神武天皇己未年御紀^ハ小民心^素
巢棲穴住習俗惟常^ト云事^ト有^テ然計^リ止事^無際
か^クぬ國神^ノ上^ハ常^ト奇^ニ事^{アリ}
穴態^ト穴巢國^ノ称^有を以^テ其並^テる^{風俗}あり

事と思ふ可^ク此^ハ能^ク人^ノ思惑^ス事^{アリ}食^ト喜^ト
の間^ノ落字^ハ上文^ハ小稽^{アリ}干^土神^土神^ノ五字^ハ
て請^シ食^于土神^土神^喜以^テ有^ハ所^{アリ}奉^饗種
盛饌^ト有^ハ四神^{出生}章^{第十}一^書小^夫品^物悉^備
貯^之百^机而^饗之^ト有^ハ意^味同^ク可^ク賞^土神^ハ
其^称名^ヲ賜^リと爲^ス給^フ御^爲あり^ル後^妙
有^ハ汝^字ノ草^体より譌^ル蟻^道彦^大食^持命^ノ
蟻^道ハ其^食を求^メ給^フ當^リ蟻^道彦^大食^持命^ノ
依^テ此^神在^ル事^ヲ知^リ給^ヘ就^テ号^給へ^ル謂^ハ
大^食持^ハ字^ノ如^ク右^ノ盛^饌を饗^シ奉^ル謂^ハ

△即神名式小訶化郡
阿良須神社見小丹
後首事紀小祭神
を大宮宜大明神
若宮宜大明神
と云ふハ如何有
む

△其二三

少し豊宇氣大神を大氣都比賣神又大御饌都神と称
奉ると同し義あり故云蟻道ハ其神名を以て其地名
とし呼ぶ云ふ亦有神祠云蟻巢ハ其蟻道彦大食持命
の神祠有る蟻巢ハ故の穴巢を改めく社号とハ成
せり今称阿良須者訛矣ハ即卅伍座の中ハ阿良須社
有る是を謂ふり右の蟻蟻小因て神在る事を所知食
今注云蟻蟻一名穀方言曰蟻蟻一名碩鼠和名介良有
五能而不成伎術其一日飛不能過屋其二日縁不能窮
木酒不能渡谷其四曰掘不能覆身其五曰走不能絶人
云こと有が如くして人家近き小多く住む者ふるを
以ふり但神名小蟻道彦と称け地名を蟻道と云ひ神
祠を蟻巢と云ふハ蟻の無き本勝れ小似たりと
雖も然物を二並べは名を爲べ小非るを以て今一
の蟻を以て皆けく小号けくを給へるありけり但蟻

蟻の字を阿理との又川守郷の文有りと雖も日子
訓てし僻事ハ非ず坐王の事實ありハ此小注す小由無きを其下小神前
以下虫と有ハ例の三女神の御事ありめども如何と
食ニ行其可五座の中ハ神前社見えたり
も知べし次小奈具以下虫食次小奈豆以下と有ハ神
名式小謂ゆる奈具神社の御事あり奈具ハ竹野郡奈
具神社此其本宮あり其風土記小和奈佐老夫の事有て
後到竹野郡船木里云々吾心奈具志久々竟留此處
因建社祭之所謂奈具社坐豊宇賀能賣命是也と見え
大同類聚方五十六小娜画藥丹波國竹野郡奈具神社
乃方と有し此大神の升天以前の故事あり由傳十四

三十小注るが如し此伽佐郡小御在坐ハ其所以知
七丁小注るが如し此伽佐郡小御在坐ハ其所以知
ふれどれども此次ある奈豆ハ撫なでして其小属たる故
事ハ有けむを傳りぬる遺憾と御事ありけれ大
同類聚方五十八小惠美藥丹後國加佐郡奈具神社之
神方也と有ナカ和ユムと咲ユムと甚似通ひたる事共あり又大
川神社名神大ハ丹後舊事記ハ豐宇氣持命天一位五社
大明神在大川村ニあり三代實録ハ貞觀元年正月廿
七日甲申奉授丹後國從五位下大川神從五位上同十
三年十一月十一日 授丹後國從五位上大川神正
五位下と所見たり又其卅五社ツ中小氣比社叙社と

見えたる其氣比社ハ傳十四五十小注るが如く淡路
國葛飯より始りて但馬國城崎郡氣比神社越前國敦
賀郡氣比神社七座並名大ふと共ハ豐宇氣大神少く渡
しを給へるが其並ハ小叙神社天利叙神社御在坐ハ
素戔嗚大神小御在坐由傳十三ハ八十小己小
云り又夫木集行遍の歌ハ山を斬る叙を峯ハ殘一置
て神佐備ハける氣比の古宮と詠るハ或説ハ越中國
立山の麓ハ僧房の有る邊ハ氣比宮有り諸立山の峯
の中小叙峯ケシと云有を詠るありと云々ハ然る事少く
如此く丹後越前越中共ハ氣比神社の御在坐すハ

並びて劔神社の御在り坐す御事ハ彼四神出生章第
十一一書ノ故事小就て此二柱神ノ善ハ一と御中と
後ハ成しを御在り坐て共ハ御力を合せ給ふると
小因れりふのり備立返りて當郡神社ノ中小右三百
四小注せり笑原社小次て伊吹戸社ノ御在り坐ハ謂
ゆり氣吹戸主神ノ御事なりて即神直日神大直日神
小渡しを給へり世記ふどハ豐宇氣大神ノ伊
勢國小御遷幸ノ後小皇太神ノ大御託言小依り副進
しを給へり趣るれども此を以見れば其天降り御在
り坐す御時より皇太神ノ属進りしを給へり小有け

三 世記小雄略天皇二十一年倭姫命豐宇氣大神度會
宮御鎮座ノ所小皇太神第一攝神多賀宮平波豐受
大神宮御仁奉副從給者也と見え其別宮多賀宮條小
伊弉那伎神所生神名伊吹戸主神又名神直日大直日
神是也と有を以考る小其御遷幸より以前小高天原
小即神直日大直日神を此大神小奉副從給へり
以て本より此小伊吹戸社ハ御在り坐つるを此度
小及びてハ殊更小皇太神ノ御許より副從へり奉
給へりりけり上三百十二丁小注せり御田口祠ノ
所小天照大神分靈子豐宇氣大神と有り心を潜の
て考奉る可き右ハ伽依郡ありける神代ノ御事迹ノ
較略ふり大己貴神少彦名神ノ故事をのち抄出て
注さむとさる思ひし思はず小長く諍言を物
爲つる事ハ天火明神ノ御事其中小入混りたりけれ
ハ其因小天香語山命天村雲命等ノ御事をも放つ可

うらざら事件多在り又其小就てハ豊宇氣大神の御
上小就てハ去敢ぬ事のも有グ爲小終小ハ天孫降臨
の後の御事小ヤ人小及びたりと偕此國作坐一大巴
貴神女彦名神ニ柱を祀奉るハ上三百十小注一奉る
ガ如ク式外少ク石崎坐三輪社の御在一坐を猶其
外小出雲社神前社と有るニ所多む此ハ國作の御事
小由有る御社と聞え_テ給ひて丹波國東田郡出雲
神社名神の御事ハ己小上三十小注一奉る趣小考合
せて此ハ其少彦名神の常世郷小渡_ルセ御在一座_テ
大己貴神の此國を獨能巡造_ルセ給_フ神迹の思を

成べき者あり將亦神前社ハ三女神少ク渡_ルセ給ふ
御事石小注_ルガ如ク多ク猶神名式小伊知布西神
社坐ハ上七十小注_ル越前國敦賀郡市振神社見えた
る其ク決ク同神少ク隱岐國知夫郡由良比女神社名
大元名和頭注小大己貴命嫡后須勢理利姫命見え
多須神其地小就て知夫利神とも申す事有小思合せられ且
與謝郡との堺小由良川と云有り由良湊と云有り又
神名式小同郡宇良神社坐を由良浦小坐と云傳ふ
小音通少ク甚_ク止事無りけ_ル所以有る御事と云
ハ見え_テ御在一坐けれ此より與謝郡以西の較略

八上九十立返り合せ讀む可き者あり又右
三丁當郡式外の旧社小氣比社氣比社御在坐坐式小伊
 知布西神社有其越前國敦賀郡氣比坐坐坐七坐並
 名神大又越中國立山の麓氣比宮又坐市振神社有
 又式外越中國立山の麓氣比宮又坐市振神社有
 事右の例共小同越後國頭城郡小属市振
 の地名有此古越中國の地あり由有有べく
 又但馬國城崎郡氣比神社坐小兵主神社二社有其
 一の二座方小氣神御在坐坐少や同郡久比神社
 八三女神坐事右の例共小合又万葉三卷十六
 丁小飼飯海乃庭好有之云有淡路國三原郡慶
 野村の地あり式小同郡笑原神社御在坐坐小雨津
 名郡由良湊神社坐と何れ右件の例小異大神
 少けり上三百四十五丁小注如く豊宇氣大神
 小ハ三女神の仕奉り御在坐坐所以小由者と
 たり見え故其大已貴神の當昔御在坐坐神都
 たりけれ故其大已貴神の當昔御在坐坐神都
 小出雲國の宇迦山本宮事ハ御父神事

依一授け聞えを給へ任小物為を給ひけ御
 事ハ申すも更其國を作巡り御在坐坐け
 間小國處小行宮の御設御在坐坐け御事ハ
 右件次小明の注奉るが如く中小播
 磨國伊和宮能登國の氣多宮等ハ殊小本都の如く為
 させ御在坐坐國小開及不給へ趣多御
 事狀ありけり猶畿内大和國出雲亞て
 ハ甚止事無都城ハ為を御在坐坐け然る
 ハ傳廿九百八十五丁小注如く神武天皇三十一年御
 紀小彼大已貴大神目之曰玉牆内國古語被

載なるハ其域内小住セ御在_一坐_テ青山四周_ハ状
を形容_ニ給_ヘ御在_一坐_テ詔給_ヘ御言_ルガ已_ク此
一書_ニ其_レ魂_ヲ留_メ任_セ御在_一坐_テ事_ヲ
吾_レ欲_シ任_テ於_ニ日本國_ニ之_ニ諸山_ニ即_テ營_ニ宮_ヲ於_ニ彼處_ニ使_テ就_テ而_テ居_ル
有_ル其_レ御事_ヲ古事記_ニハ_ル大國_ノ主_ト神_ト日_ノ然_ル者_ヲ治_メ奉_ル之_ヲ
狀_ヲ奈何_ト答_フ言_フ吾_レ者_ハ伊都岐_ノ奉_ル千_ノ倭_ノ之_ニ青垣_ノ東_ノ山_ノ上_ニ此_ノ者_ハ坐_テ
御_ニ諸山_ノ上_ニ神_也と有_テ其_レ神_ノ祭_ヲを乞_フ給_ヘる_ハ形_ノ如_ク
鎮_ニ奉_ルセ給_ヘる_ハ其_レ齋_ヲ奉_ル主_ト神_ハ即_テ其_レ大國_ノ主_ト神_ト
小_レ渡_ルセ給_ヘル_ハ其_レ和_魂大_物主_ト神_トハ_レ遙_ク小_レ以前_ニ
小_レ大_レ已_レ貴_ト神_ト此_ノ地_ニ小_レ已_レ小_レ御_在一_坐テ_其祭_主ト_爲テ_任

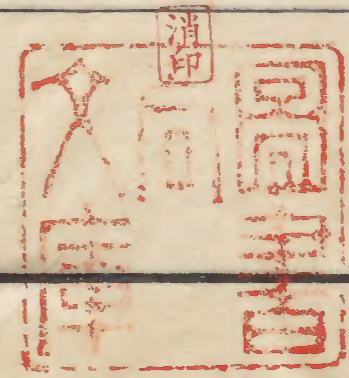
奉_ルセ御_在一_坐ケ_ル御_事申_スも更_ルり然_ル時_ハ神
代_ニ小_レ此_ノ大神_ノ御_在一_坐ケ_ル神_都ハ_レ中_洲少_クハ_レ此_ノ大
三_輪多_ク御_事を見_奉ル知_ベ一_其大_物主_ト神_ノ此_ノ小_レ
鎮_リ御_在一_坐ス御_事ハ_レ其_レ國_ノ避_クの_御時_ハ在_ル事_委一_レ
くハ_レ傳_サ九_ニ十_ニ小_レ注_シ奉_ルガ如_ク又_レ此_ノ神_ノ北_ニ並
び_テ穴_師の_地有_ルも已_レ貴_ト同_ト義_多事_も其_レ七_十八_丁
ハ_レ小_レ已_レ小_レ注_シ其_レ神_代の_舊地_ヲを以_テ後_ハ八_千戈_神の_御
御_事ハ_レ此_ノ鎮_リ給_ヘる_ハ又_レ其_レ百_八十_丁小_レ注_シガ如_ク
く大_和と云_フ國_名ハ_レ元_山跡_少ク_少彦_名命_と共_ニ小_レ平_夷
小_レ作_成一_給ヘ_ル小_レ起_ルガ又_レ其_レ荒_魂を_大倭_大國_魂

神と申奉るを以て殊小大己貴神の御上ハ由縁深
在るを思ふ可一又其三輪山より直向ふ登美山ハ
宗像神社立せ給へるも大己貴神の古より此小其御
靈を留めしを給へるも著く初國所知食し御軍の御
時小當りく鷄瑞を見たり給へるも其大神の天孫を
奉助しを給ふ御所業ハ因り事傳十五三百四十一丁小注
セリを以て辨ふ可くあり有けり右ハ此大和國ハ名
高ハ大神大物主神
社名神ハ更り大和坐大國魂神社穴師坐兵主神社
宗像神社等の御事と合せて今一ハ略説を立る者ハ
り何れハ神代の故事ハ資て中古ハ重く崇奉しを給
へる御社共の御事ハ資て人皆中昔の事ハ知て上
世を思はざるハ故ハ少ク云ハ其委り説ハ如き
ハ己小傳廿九卷ハ件ハ小注せれば今云限ハ非る者

ハ祈年御縣神詞ハ曾布と有ハ後ハ分れて和名抄ハ
添上曾不乃添下曾不乃と有ハ二郡ハ成りハ其始
ハ大倭神社注進狀ハ謂ゆハ園韓神社三座と有ハ其
園神を古事記ハ曾留理神と所見たり即其神ハ起れ
ハ地名あり事傳廿三丁小注ハ如ハ然ハて其所
小注ハ如く神名式ハ添上郡率川坐大神御子神社
三座率川阿波神社等ハ神代の舊社と所見たれば此
國作の御事ハ就てハ皆ハ所由有べき御事申すも
更り又平群郡船山神社風土記ハ那珂郷船山神社
大己貴尊也天武天皇二年癸酉始奉圭田行神礼と所

元又御擲神社玉比咩也と有り上二百七引る伊勢
風土記小安濃郡船山神社云々所祭田凝比咩也と有
を引合せ見ると右の御擲神社ハ即玉依姫命なり
此小夫婦相並び御在り坐す御事ハ所見たり又大同
類聚方廿一小倍久理藥大倭國平群里人之方也元者
大汝持命之御藥登云傳多流也と有を以ても其御事
迹の此小在り事を知べし又葛上郡大穴持神社葛下
郡葛木二上神社二座並大月酉譽記小二上出嶽坐豊布
都靈神社亦名武雷命大將軍坐大國魂尊と見ゆ三代
實錄小負觀元年正月廿七日甲申奉授大和國從五位

下葛木二上神從五位上と有り上八十云々越中國
射水郡二上神社の御事思合す可し又大同類聚方五
十六小務可波藥倭國忍海郡六河道成奏流方元大國
主命之方也と有り又宇智郡宇智神社一説小今称國
生明神と云々も由有し聞ゆ又吉野郡大名持御魂神
社名神大月の御事ハ已小傳廿九八十注一奉れり
次新嘗右ハ此國少の較略あり但傳其百八十注せり
が如く國も多存りけり此大和國ハ一も殊小大已
貴少彦名二神の美たく麗しく作固めさせ御在り坐
て青垣山を一四方小巡り給ひ國中を平夷小爲



させ御在^一坐^一置させ給へる御事ハ^一往^二天
 神御子の大宮處太敷^一御在^一坐^二御爲^一爲させ給
 へる者少^レ此國を王牆内國と号させ御在^一坐^二大
 已貴神の其御靈を留めさせ給へる^一後竟^一皇御孫
 尊の近守神と御在^一坐^二神器の昌運^一を守り聞えさ
 せ給^一ハ^二御心^一ふる御事^一御在^一坐^二尊^一とて辱^一
 と^一仰奉る^一小猶餘有^レ言^一と意^一も甚^一及び難^一ふるむ^一右
 上二十四丁より注^一初^一此^一終^一れ^一る^一が^一皆^一が^一自
 後國中所未成者大已貴神獨能巡造と云事の言^一か
 り然^一る^一小其百二十三丁^一及^一び^一て^一播磨風土記^一を得^一た
 り^一ける^一小傳廿九卷^一注^一漏^一れ^一る^一少彦名神^一の御事^一迹
 をも合^一せ^一注^一さ^一す^一ハ^一得^一有^一べ^一る^一勢^一小成^一た^一る^一を
 又此二百九十八丁^一小至^一り^一て^一丹後風土記^一をも更^一小^一續^一

